SONY®

4-287-948-**02** (1)

レンズ交換式デジタルカメラ

α65

αハンドブック

Aマウント

SLT-A65V

目次

本機を操作するための基本的な情報を掲載しています。
まずはこちらからご覧ください。

準備する

撮って、見る

被写体に合わせて撮る

撮影に便利な機能を使う

再生に便利な機能を使う

機能一覧

パソコンで見る

その他

応用編 79

さらに詳しく本機の機能を説明しています。

撮影準備

撮影

再生

カメラの設定

パソコン

プリント

お手入れ

困ったときは／本機について

基本編

本機を操作するための基本的な情報を掲載しています。
まずはこちらからご覧ください。さらに本機の機能を使いこなすには「応用編」をご覧ください
（79ページ）。

お使いになる前に必ずお読みください

表示言語について

本機では日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

撮影方法について

- 本機は液晶モニターを使用して撮影する液晶モニターモードと、ファインダーを使用して撮影するファインダーモードの2通りの撮影方法が可能です。
- 撮影する前に確認する画像は、実際の撮影結果と異なることがあります。

本機搭載の機能について

- 本機は1080 60i対応機です。
- 本機は1080 60pの動画に対応しています。従来の標準的な記録モードがインターレースで記録するのと異なり、1080 60pではプログレッシブで記録します。これにより解像度が増え、滑らかでよりリアルな映像を撮影することができます。
- 本機で撮影した3D画像を3D対応モニターでご覧になる場合、眼の疲労、疲れ、気分が悪くなるなどの不快な症状が出ることがあります。3D画像を視聴するときは、定期的に休憩をとることをおすすめします。必要な休憩の長さや頻度は個人差がありますので、ご自身で判断してください。不快な症状が出たときは、回復するまで3D画像の視聴をやめ、必要に応じて医師にご相談ください。本機に接続する機器やソフトウェアの取扱説明書もあわせてご覧ください。なお、お子様の(特に6歳未満の幼児)の視覚は発達段階にあります。お子様が3D画像を鑑賞する前に、小児科や眼科などの医師にご相談ください。大人のかたは、お子様に上記を守らせるように監督してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピー(バックアップ)をおとりください。

液晶モニター、およびファインダー、レンズ、イメージセンサーについてのご注意

- 液晶モニターやファインダーは、有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。
- 液晶モニターを持って本機を持ち運ばないでください。
- 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください。カメラの内部が故障することがあります。また、太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。
- 液晶モニターの裏や回転軸付近には、磁石が設置されています。フロッピーディスクやクレジットカードなど磁気の影響を受ける物をはさまないでください。
- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。また、初めは画面が通常

よりも少し暗くなります。本機内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。

長時間撮影についてのご注意

- 長時間、連続して撮影しつづけると、本機の温度が上昇します。一定以上の温度になると、[!] マークが表示され自動的に本機の電源が切れます。電源が切れた場合は、本機の温度を充分下げるために、10分以上そのまま放置してください。
- 気温の高い場所では本機の温度上昇が早くなります。
- 本機の温度が上昇すると、画質が低下する場合があります。温度が下がるのを待って撮影されることをおすすめします。
- 本機の表面が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。

AVCHDビュー動画*のパソコンへの取り込みについて

AVCHDビュー動画をパソコンに取り込むときは、Windowsの場合はCD-ROM（付属）に収録されているソフトウェア「PMB」を使用してください。

* AVCHDビュー動画とは、動画の[記録方式]を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画のことです（106ページ）。

他機での動画再生に際してのご注意

- 本機は、AVCHD方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のHigh Profileを採用しております。このため、本機でAVCHD方式で記録した動画は次の機器では再生できません。
  - High Profileに対応していない他のAVCHD規格対応機器
  - AVCHD規格非対応の機器

  また、本機は、MP4方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のMain Profileを採用しております。このため、本機でMP4方式で記録した動画はMPEG-4 AVC/H.264の対応機器以外では再生できません。
- ハイビジョン画質（HD）で記録したディスクはAVCHD規格対応機器でのみ、再生できます。
  DVDプレーヤーやDVDレコーダーはAVCHD規格に非対応のため、ハイビジョン画質（HD）で記録したディスクを再生できません。また、これらの機器にAVCHD規格で記録したハイビジョン画質（HD）のディスクを入れた場合、ディスクの取り出しができなくなる可能性があります。
- 1080 60pの動画は、対応機器以外では再生できません。

GPS機能について

- GPS機能は、ご利用になる国や地域の規制に従ってお使いください。
- 位置情報を記録しない場合は[GPS機能]を[切]にしてください（158ページ）。
- 飛行機の中では機内の案内に従って、本機の電源をお切りください。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

本書中のデータについて

性能、仕様に関するデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（25℃）下でのものです。バッテリーについては、CHARGEランプ消灯後、約1時間充電した状態のバッテリーを使用したときのものです。

機種名について

本書では付属するレンズが異なる機種をまとめて記載しています。
レンズによって、機種名が変わります。

機種名	付属されるレンズ
SLT-A65V	–
SLT-A65VK	DT 18-55mm
SLT-A65VY	DT 18-55mmとDT 55-200mm

ファインダーでの撮影について

高解像度、高コントラストのXGA・有機ELファインダーを搭載しています。視認性の良いファインダーを実現するため、様々な要素のバランスを重視した設計を行い、35mmフルサイズセンサーを搭載しているDSLR-A900に迫る広い視野角と、長いアイポイントを実現しています。

- ファインダーの周辺部分の画像が少し歪んで見える場合がありますが、故障ではありません。構図の隅々まで確認して撮影したいときは、液晶モニターも使用してください。
- ファインダーをのぞきながらパンしたり、視線を上下左右に動かすと、ファインダーの画像が歪んだり、色合いが変わって見える場合があります。これはレンズや表示デバイスの特性によるもので、故障ではありません。なるべくファインダーの中央付近を見るようにして撮影してください。

付属品を確認する

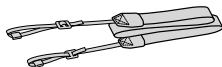
ご自分のカメラの機種名をご確認の上（12ページ）、付属品をお確かめください。
万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
（　）内は個数

全機種共通

- カメラ（1）
- バッテリーチャージャーBC-VM10A（1）

- リチャージャブルバッテリーパックNP-FM500H（1）

- USBケーブル（1）

- ショルダーストラップ（1）

- ボディキャップ（1）（本機に装着）

- アイカップ（1）（本機に装着）
- CD-ROM（1）
  - *α*アプリケーションソフトウェア
  - *α*ハンドブック（本書）
- 取扱説明書（1）
- 保証書（1）

SLT-A65VK

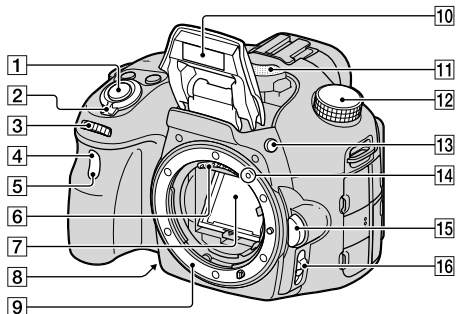
- DT 18-55mm ズームレンズ（1）（レンズフロントキャップ含む）/保護カバー（1）

SLT-A65VY

- DT 18-55mm ズームレンズ（1）（レンズフロントキャップ含む）/保護カバー（1）
- DT 55-200mm ズームレンズ（1）（レンズフロントキャップ、レンズリヤキャップ含む）/レンズフード（1）

各部のなまえ

( )の数字は、参照ページです。

本体前面

1 シャッターボタン(30)

2 電源スイッチ(27)

3 コントロールダイヤル(95)

4 リモコン受光部(147)

5 セルフタイマーランプ(144)

6 レンズ信号接点*

7 ミラー *

8 プレビューボタン(97)

9 マウント

10 内蔵フラッシュ *（41、126）

11 マイク** （108）

12 モードダイヤル(36)

13 ⚡（フラッシュポップアップ）ボタン(41、126)

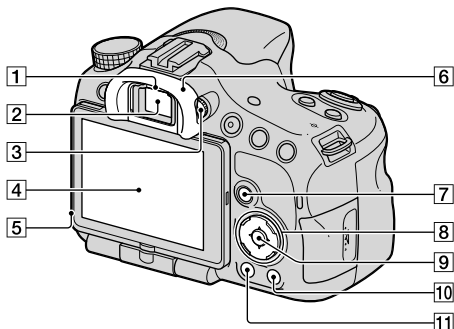
14 マウント標点(24)

15 レンズ取りはずしボタン(25)

16 フォーカスモードスイッチ（109、115）

***の付いたところは、直接手で触れないでください。**

****動画撮影時は手でふさがないようにしてください。ノイズや音量低下の原因になります。**

本体後面

1 アイセンサー（80）

2 ファインダー *

- ファインダーに目を近づけるとファインダー表示に切り換わり、離すと液晶モニター表示に戻ります。

3 視度調整ダイヤル（29）

4 液晶モニター（74、84、148）

5 明るさセンサー（167）

6 アイカップ（80）

7 撮影時：Fn（ファンクション）ボタン（52、53）
再生時：（再生画像回転）ボタン（150）

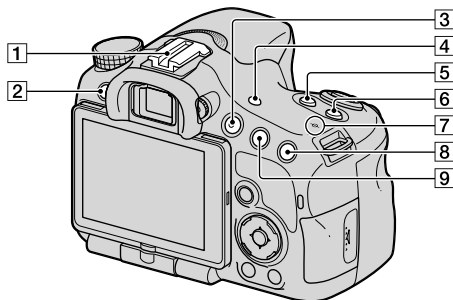
8 コントロールボタン
▲/▼/◀/▶/DISP（ディスプレイ）（表示切り換え）（81、148）/WB（ホワイトバランス）（138）/ / （ドライブ）（44、143）/ （ピクチャーエフェクト）（134）

9 コントロールボタン（実行ボタン）/AFボタン（113）/被写体追尾（114）

10 ?（カメラ内ガイド）ボタン（64）
再生時：（削除）ボタン（34）

11 ▶（再生）ボタン（33）

***の付いたところは、直接手で触れないでください。**

本体上面

1 オートロックアクセサリーシュー（127）

2 MENU（メニュー）ボタン（55）

3 MOVIE（ムービー）（動画）ボタン（32、103）

4 FINDER（ファインダー）/LCD切り換えボタン（168）

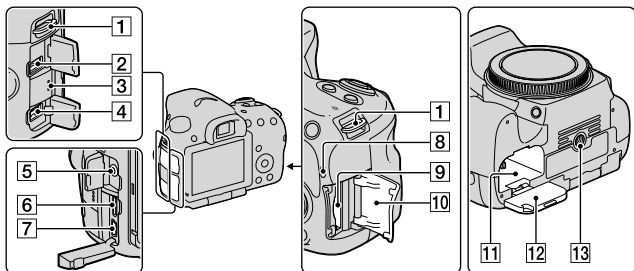
5 ☒（露出補正）ボタン（43）

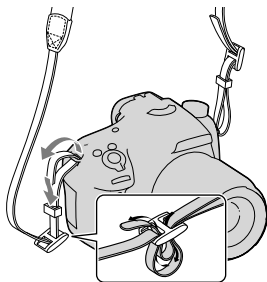
6 ISOボタン（129）

7 ⊖ イメージセンサー位置表示（111）

8 撮影時：⛶（スマートテレコンバーター）ボタン（142）/ピント拡大ボタン（117）
再生時：⊕（拡大）ボタン（48）

9 撮影時：AEL（AEロック）ボタン（122）/AV（アパチャーバリュー）ボタン（99）
再生時：⊖（縮小）ボタン（48）/▦（一覧表示）ボタン（49）

本体側面/底面

1 ショルダーストラップ取り付け部

- ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

2 REMOTE（リモート）端子

- リモートコマンダーRM-L1AM（別売）を本機とつなぐ場合は、リモートコマンダーのターミナルを、コードが前方に向くようにしてREMOTE端子のガイド溝に合わせて差し込んでください。

3 スピーカー

4 DC IN端子

- ACアダプター AC-PW10AM（別売）を本機とつなぐ場合は、本機の電源を切り、ACアダプターの接続コードのプラグをDC IN端子に差し込んでください。

5 マイク端子

- 外部マイクを接続すると自動的に内蔵マイクから外部マイクに切り換わります。
  プラグインパワー対応の外部マイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

6 HDMI端子（50、156）

7 ⭠(USB)端子（181）

8 アクセスランプ（22）

9 メモリーカード挿入口（21）

10 メモリーカードカバー（21）

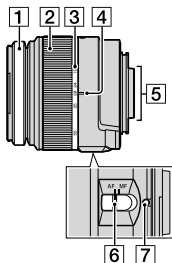
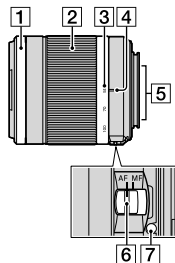
11 バッテリー挿入口（21）

12 バッテリーカバー（21）

13 三脚ネジ穴

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使う。
  ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

レンズ

DT 18-55mm F3.5-5.6 SAM（SLT-A65VK/A65VYに付属）

DT 55-200mm F4-5.6 SAM（SLT-A65VYに付属）

1 フォーカスリング

2 ズームリング

3 焦点距離目盛

4 焦点距離指標

5 レンズ信号接点

6 フォーカスモードスイッチ

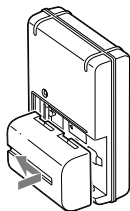
7 マウント標点

- DT 18-55mm F3.5-5.6 SAM/DT 55-200mm F4-5.6 SAMはソニー製Aマウントカメラ（APS-Cサイズ相当の撮像素子搭載機種)専用のレンズです。35mm判カメラでは使えません。
- DT 18-55mm F3.5-5.6 SAM/DT 55-200mm F4-5.6 SAM以外のレンズは、レンズの取扱説明書をご覧ください。

バッテリー（電池)を充電する

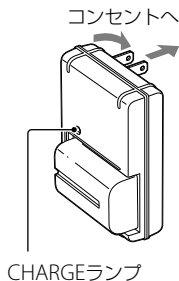
初めてお使いになるときは、"インフォリチウム"バッテリー NP-FM500H（付属)を、必ず充電してください。
"インフォリチウム"バッテリーは、使い切らない状態でも充電できます。また、充電が完了していない状態で使用することもできます。
バッテリーは、使わなくても少しずつ放電しています。撮影機会を逃さないためにも、ご使用前にバッテリーの残量を確認し、消耗している場合は再度充電してください。

1 バッテリーをバッテリーチャージャーに入れる。

カチッと音がするまで軽く押す。

2 電源プラグを引き起こし、コンセントに取り付ける。

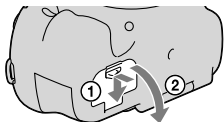
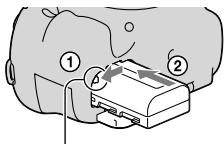
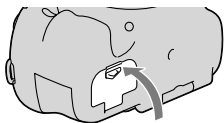
点灯：充電中
消灯：充電完了

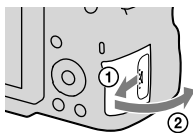
充電時間の目安	175分

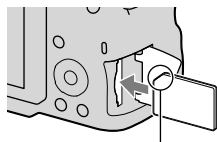
- バッテリーを使い切ってから、温度25℃の環境下で充電した場合。
- 充電が完了すると、CHARGEランプが消える。

ご注意

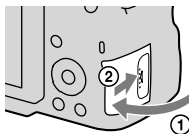
- バッテリーの残量や、充電環境によって、充電時間は異なります。
- 周囲の温度が10℃～ 30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- バッテリーチャージャーを取り付けるときは、お手近なコンセントをお使いください。

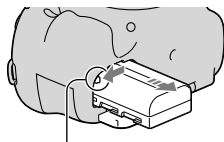
バッテリー/メモリーカード(別売)を入れる

1 バッテリーカバーのオープンレバーを押し、カバーを開ける。

2 バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。

3 カバーを閉じる。

4 メモリーカードカバーをスライドして、カバーを開ける。

5 メモリーカードを入れる。

- 切り欠き部をイラストの向きに合わせ、「カチッ」と音がするまで奥に差し込む。

切り欠きの向きに注意する

6 カバーを閉じる。

バッテリーを取り出すには

電源を切り、ロックレバーをずらして、バッテリーを引き出します。このとき、バッテリーが落下しないよう、注意してください。

ロックレバー

メモリーカードを取り出すには

アクセスランプが点灯してないことを確認し、カバーを開けて、メモリーカードを1度押します。

バッテリー残量を確認するには

付属のバッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているInfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーです。本機の使用状況に応じたバッテリー残量を%単位で表示します。

残量						「電池がなくなりました」
	多 → 少					撮影できません

使用できるメモリーカード

本機で使用できるメモリーカードは、以下の通りです。ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

対応メモリーカード	静止画	動画	本書での表現
メモリースティック PRO デュオ	○	○(Mark2のみ)	メモリースティックPROデュオ
メモリースティック PRO-HG デュオ	○	○	
SDメモリーカード	○	○(Class 4以上)	SDカード
SDHCメモリーカード	○	○(Class 4以上)	
SDXCメモリーカード	○	○(Class 4以上)	

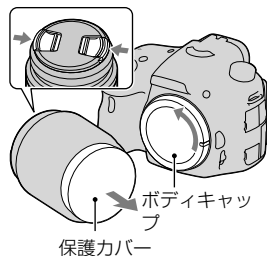
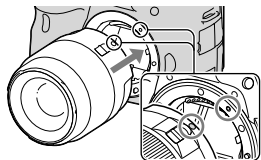
- マルチメディアカードは使用できません。

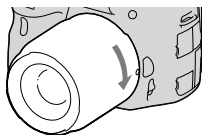
ご注意

- SDXCメモリーカードに記録した映像は、exFATに対応していないパソコンやAV機器などに、本機とUSBケーブルで接続して取り込んだり再生することはできません。接続する機器がexFATに対応しているかを事前にご確認ください。
  対応していない機器に接続した場合、フォーマット(初期化)を促す表示が出る場合がありますが、決して実行しないでください。内容がすべて失われます。(exFATは、SDXCメモリーカードで使用されているファイルシステムです。)

レンズを取り付ける

1 本機のボディキャップとレンズの後ろの保護カバーをはずす。

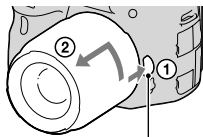
- カメラ内部にゴミやほこりが入らないように、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- 撮影するときは、レンズ前面のレンズフロントキャップもはずす。

2 レンズと本機の2つのオレンジ色の点（マウント標点）を合わせてはめ込む。

3 レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

- レンズを斜めに差し込まない。

ご注意

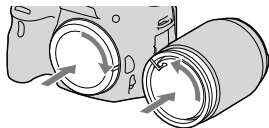
- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。
- Eマウントレンズには対応していません。
- 三脚座を備えたレンズを使用するときは、重量のバランスをとるためにレンズ側の三脚座を三脚に取り付けて使用してください。

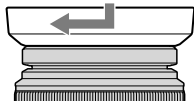
- レンズを取り付けてカメラを持ち運ぶときは、カメラとレンズの両方をしっかり持ってください。
- ズームやピント合わせなどで繰り出たレンズ部分を持って、カメラを保持しないでください。

レンズを取りはずすには

1 レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずす。

レンズ取りはずしボタン

2 本機にボディキャップを、レンズの前後にキャップを取り付ける。

- キャップは、ほこりを落としてから取り付ける。
- DT 18-55 mm F3.5-5.6 SAMレンズキットをご購入された場合は、通常のレンズリヤキャップが同梱されておりません。レンズをはずして保管する場合は、ALC-R55をお買い求めください。

レンズフードを取り付けるには

画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。
レンズフードの取り付け部の形状とレンズの先端の形状を合わせ、「カチッ」というまで時計方向に回す。

ご注意

- DT 18-55mm F3.5-5.6 SAMは、レンズフードが同梱されていません。別売のALC-SH108をご使用できます。
- フラッシュ発光時はレンズフードでフラッシュ光がさえぎられ、画像に影が写ることがあるため、レンズフードを取りはずしてください。
- 撮影後レンズフードを収納するときは、逆向きにレンズに取り付けてください。

レンズ交換時のご注意

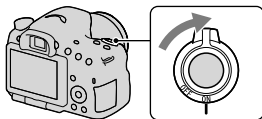
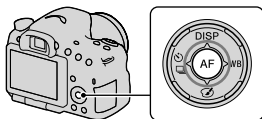
レンズ交換の際に、カメラ内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（フィルムの役割を果す部分）表面に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。
本機はアンチダスト機能によりゴミやほこりが付きにくくなっておりますが、レンズの取り付け/取りはずしを行う際には、ほこりの少ない場所で素早く行ってください。

電源を入れ、時計を合わせる

初めて電源を入れたときは、日時設定の画面が表示されます。

1 電源スイッチを「ON」にして、電源を入れる。

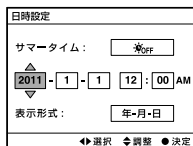
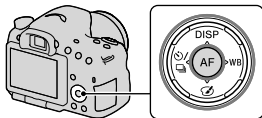
日時設定を要求する画面になる。

- 電源を切るときは、「OFF」にする。

2 液晶モニターの表示で[実行]が選ばれていることを確認し、コントロールボタンの中央を押す。

3 [東京/ソウル]が選ばれていることを確認し、コントロールボタンの中央を押す。

4 ◀/▶で設定する項目を選び、▲/▼で数値を設定する。

[サマータイム：]：日本では、サマータイムは[切]にする。

[表示形式：]：日付表示順を選ぶ。

- 真夜中は12:00AM、正午は12:00PMとなる。

5 4の手順を繰り返して、すべて設定し、コントロールボタンの中央を押す。

6 [実行]が選ばれていることを確認し、コントロールボタンの中央を押す。

日時設定を中止するには

MENUボタンを押します。

日時設定をやり直すには

初めて電源を入れたときのみ、自動で日時設定画面が開きます。2回目以降はメニューで設定してください。

MENUボタン → 1 → [日時設定]を選ぶ。

エリア設定をやり直すには

本機を使用する場所の時刻に合わせることができます。海外旅行先などのエリアに合わせておくと、本機の時刻も更新されて便利です。

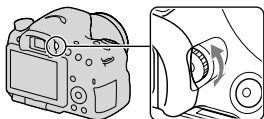
MENUボタン → 1 → [エリア設定]を選ぶ。

設定した日時の保持について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切やバッテリーの有無に関係なく保持するために、充電式バックアップ電池を内蔵しています(205ページ)。

撮影の前に

ファインダーの見えかたを調整する(視度調整)

ファインダー内の画面表示がはっきり見えるように、視力に合わせて視度調整ダイヤルを回す。

ご注意

- 本機では視度調整アタッチメント(別売)は使用できません。

正しく構える

上半身を安定させて、カメラが動かないように構える。

液晶モニターモード時

ファインダーモード時

ファインダーモード時（縦位置）

ポイント①

片手でカメラのグリップを持ち、もう片方の手でレンズの下側を支える。

ポイント②

両足を肩幅に広げて、下半身を安定させる。

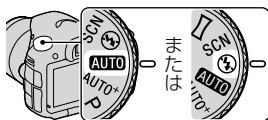
ポイント③

脇を軽く締める。

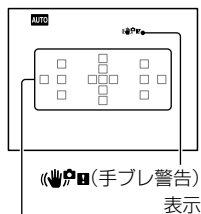
低い姿勢で撮影するときは、膝のうえに、肘などを乗せるなどして、上半身を安定させる。

静止画を撮る

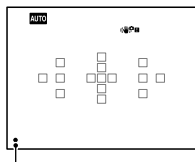
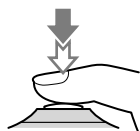
「AUTO」モードでは、本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できます。
フラッシュ撮影が禁止されているような場所では ⊛ を選びます。

1 モードダイヤルを AUTO または ⊛（発光禁止）にする。

2 液晶モニターを見るか、ファインダーをのぞいて、本機を構える。

3 被写体をフォーカスエリアにあわせる。

- （手ブレ警告）表示が点滅した場合には、正しく構え直したり、三脚を使って撮影するなどして手ブレに注意して撮影する。

4 ズームレンズの場合は、ズームリングを回して、被写体の大きさを決める。

5 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと、●または(●)(フォーカス表示)が点灯する(110ページ)。

6 シャッターボタンを深く押し込んで、撮影する。

動画を撮る

1 MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影を開始する。

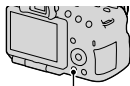
- すべての撮影モードから動画撮影を開始できる。
- シャッタースピードと絞りは自動で設定される。希望の値に設定したいときは、モードダイヤルを 🎞（動画）にする（105ページ）。
- オートフォーカスの場合は、ピントを合わせ続ける。

2 もう一度MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影を終了する。

ご注意

- 動画撮影中はレンズやカメラの作動音などが記録されてしまうことがあります。［音声記録］を［切］にすると、音声が記録されないようにできます（108ページ）。
- 1回の連続撮影時間は環境温度や本機の使用状態により、撮影可能時間が短くなる場合があります。「動画の連続撮影についてのご注意」を確認してください。
- [🌡] が表示された場合は、本機の温度が上がっています。本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってから撮影してください（204ページ）。

再生する

1 ▶ボタンを押す。

2 MENUボタン → ▶ 1 → [ビューモード] → 希望のモードを選ぶ。

- 静止画を再生するには[フォルダービュー(静止画)]を、動画を再生するには記録形式に合わせて[フォルダービュー(MP4)]または[AVCHDビュー]を選ぶ。

3 コントロールボタンの◀/▶で画像を選ぶ。

- 動画を再生する場合はコントロールボタンの中央を押す。

動画再生中にできること	コントロールボタン/コントロールダイヤル操作
一時停止/再生	●
早送り	▶
早戻し	◀
正方向スロー再生	一時停止中にコントロールダイヤルを右に回す
逆方向スロー再生	一時停止中にコントロールダイヤルを左に回す • コマ送りになる。
音量	▼ → ▲/▼
情報表示	▲

ご注意

- 本機以外で撮影された動画ファイルは再生できない場合があります。

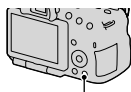
削除する

一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

再生中の画像を削除する

1 削除したい画像を表示して 🗑 ボタンを押す。

🗑 ボタン

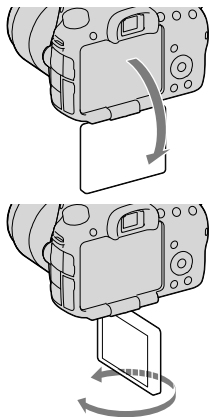
2 コントロールボタンの▲で[削除]を選び、中央を押す。

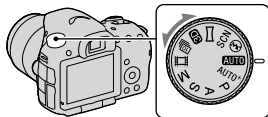
液晶モニターの角度を変えて撮る

液晶モニターを見やすい角度に調節する。

- 手前に180°開く。
- 液晶モニターは前方に向いた状態から左に270°回転する。
- 使用しないときは、液晶モニターをカメラの内側に向けて収納することをおすすめします。

ご注意

- 液晶モニターを開いている場合は、ローポジションの撮影を考慮してアイセンサーが無効になる場合があります。ファインダーをのぞいても表示が液晶モニターからファインダーに自動で切り換わらないときは、FINDER/LCD切り換えボタンを押してください。

撮影モードを変えて撮る

モードダイヤルで希望の撮影モードを選ぶ。

本機には、以下の撮影モードがあります。

AUTO（オート）/ (発光禁止)（30、88）	「AUTO」モードでは、本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できる。フラッシュを発光させたくないときは「発光禁止」で撮影する。
AUTO+（AUTOアドバンス）（37、88）	本機が撮影状況を認識して、自動的に設定を行う。必要に応じて連続撮影し、合成や抽出によって最適な画像を保存する。
SCN（シーンセレクション）（38、89）	撮りたい被写体や環境に合ったモードを選ぶと、被写体に適した設定で撮影できる。
（スイングパノラマ）（39、92）	パノラマ画像を撮影できる。
3D（3Dパノラマ）（39、92）	3D対応テレビで3D観賞が可能な3Dパノラマ画像を撮影できる。
（連続撮影優先AE）（40、94）	シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影する。毎秒最高約10枚の速度で連続して撮影する。
（動画）（32、103）	露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定して動画を撮影する。
P（プログラムオート）（94）	露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整できる。

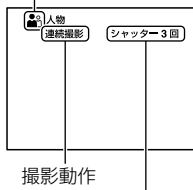
A（絞り優先）（95）	絞りをコントロールダイヤルで手動設定する。
S（シャッタースピード優先）（97）	シャッタースピードをコントロールダイヤルで手動設定する。
M（マニュアル露出）（99）	露出（シャッタースピードと絞り）をコントロールダイヤルで手動設定する。

AUTO+ AUTOアドバンス

1 モードダイヤルを AUTO+（AUTOアドバンス）にする。

2 被写体にカメラを向ける。

シーンを認識すると、シーン認識マークと、認識したシーンに最適な撮影動作、連続撮影枚数が表示される。

シーン認識マーク

撮影動作

連続撮影枚数

3 ピントを合わせて撮影する。

認識シーン

（夜景）	（手持ち夜景）	（風景）
（逆光＆人物）	（人物）	（三脚夜景）
（逆光）	（マクロ）	（夜景＆人物）
（スポットライト）	（低照度）	（赤ちゃん）

撮影動作

連続撮影（143）	スローシンクロ（41、126）	オートHDR（132）
日中シンクロ	スローシャッター	手持ち夜景（38、89）

SCN シーンセレクション

1 モードダイヤルを SCN（シーンセレクション）にする。

2 コントロールボタンの中央を押す。

3 ▲/▼で希望のモードを選び、コントロールボタンの中央を押す。

- 他のシーンにしたいときは、Fnボタンを押して選び直す。

4 ピントを合わせて撮影する。

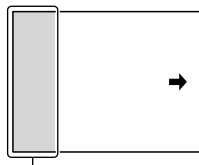
（ポートレート）	背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。
（スポーツ）	高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。
（マクロ）	花や料理などに近づいて撮るときに適している。
（風景）	風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。
（夕景）	夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。
（夜景）	暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。

(手持ち夜景)	三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。
(夜景ポートレート)	夜景を背景に手前の人物を撮る。

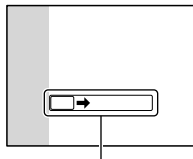
スイングパノラマ/3D 3Dパノラマ

1 **モードダイヤルを (スイングパノラマ)、または 3D (3Dパノラマ)にする。**

2 **コントロールボタンの中央を押す。**

3 **撮りたい被写体の端にカメラを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合せる。**

撮影されない部分

4 **シャッターボタンを深く押し込む。**

5 **画面に表示されている矢印の方向に、カメラをガイドの終わりまで動かす。**

ガイド

連続撮影優先AE

1 モードダイヤルを （連続撮影優先AE）にする。

2 ピントを合わせて撮影する。

- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。
- 毎秒最高約10枚の速度で連続して撮影する。

フラッシュを使う

暗い場所での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せ、手ブレを抑えるのにも役立ちます。また逆光などで被写体が暗くなる場合も、フラッシュにより、明るく写せます。

1 Fnボタン → ⚡(フラッシュモード) → 希望の設定を選ぶ。

- 撮影モードごとの選択可能なフラッシュモードについては、78ページをご覧ください。

2 ⚡ボタンを押す。

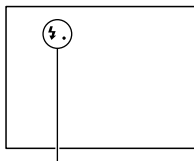
フラッシュ発光部が上がる。

- 「AUTO」、「AUTOアドバンス」やシーンセレクションでは、光量不足または逆光と判断したとき、自動的にフラッシュ発光部が上がる。⚡ボタンを押しても、フラッシュ発光部は上がらない。

3 フラッシュの充電が完了したら、撮影する。

⚡●(フラッシュ充電)表示

⚡●点滅：フラッシュ充電中。点滅しているときは、シャッターは切れない。
⚡●点灯：フラッシュの充電が完了。フラッシュ撮影ができる。

- 暗所での撮影など、オートフォーカスでピントが合いにくい状況でシャッターボタンを半押しすると、フラッシュが発光する(AF補助光)。

(発光禁止)	内蔵フラッシュを上げていても発光しない。 • 撮影モード「P」、「A」、「S」、「M」のときは選択できないが、フラッシュ発光部を上げないかぎり発光禁止になる。
AUTO(自動発光)	光量不足/逆光と判断したとき発光する。
(強制発光)	必ず発光する。
SLOW(スローシンクロ)	必ず発光する。スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れる。
REAR(後幕シンクロ)	露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。
WL(ワイヤレス)	外部フラッシュ(別売)を本機から取りはずして離して撮影する(ワイヤレスフラッシュ撮影)。

画像の明るさを調整する

撮影モード「M」以外では、露出が自動的に設定されます（自動露出）。自動露出で設定された露出値を基準に、＋側に補正すると、画像全体を明るく、－側に補正すると、画像全体を暗くできます（露出補正）。

1 ⊠ ボタンを押す。

2 コントロールダイヤルで希望の補正値を選ぶ。

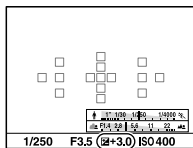
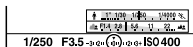
＋（オーバー）側：画像が明るくなる。
－（アンダー）側：画像が暗くなる。

- ファインダーモードのときは、測光インジケーターで露出を確認する。

液晶モニター表示

露出補正値

ファインダー表示

1/250 F3.5 ISO400

基準露出

3 ピントを合わせて撮影する。

撮影のテクニック

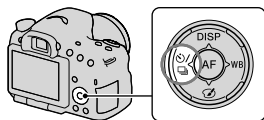
- 撮影した画像を見て補正値を調整する。
- ブラケット撮影機能を使うと、露出値を前後にずらした複数枚の画像が撮影できる（145ページ）。

ご注意

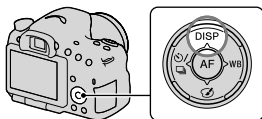
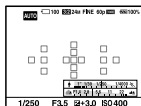
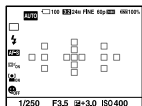
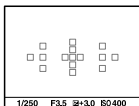
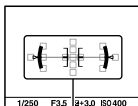
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時は設定できません。

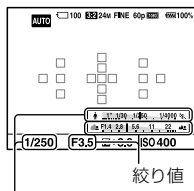
⏲/ ▭ドライブモードを選ぶ

1枚撮影、連写、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

コントロールボタンの ⏲/▭ → 希望のモードを選ぶ。

□（1枚撮影）（143）	通常の撮影方法。
▭(連続撮影)（143）	連続して撮影する。
⏲（セルフタイマー)(144）	10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーは、撮影の際のカメラブレを和らげるのに便利。
BRK C（連続ブラケット)(145）	露出を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。
BRK S（1枚ブラケット)(145）	露出を段階的にずらして、合計3枚の画像を1枚ずつ撮影する。
BRK WB（ホワイトバランスブラケット)(146）	選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。
(リモコン)（147）	ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1（別売)のSHUTTERボタン、2SECボタン(2秒後にシャッターを切る)を使って撮影する。

画面の表示を変える（DISP）

撮影情報画面の表示は、コントロールボタンのDISPを押すたびに下記のように切り換わります。
ファインダーと液晶モニターはそれぞれ別の表示に設定できます。

グラフィック表示について

グラフィック表示ではシャッタースピードと絞り値をグラフィカルに表現し、露出の仕組みを分かりやすくイメージ化して表現しています。シャッタースピードインジケーター /絞りインジケーターのバーが現在の値を指しています。

画像サイズを変える

静止画：画像サイズ

MENUボタン → 1 → [画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

[横縦比]が3：2のとき

画像サイズ		用途例
L：24M	6000×4000画素	最高画質で撮影したいとき
M：12M	4240×2832画素	A3ノビサイズまでの印刷
S：6.0M	3008×2000 画素	A5サイズまでの印刷

[横縦比]が16：9のとき

画像サイズ		用途例
L：20M	6000×3376画素	ハイビジョンテレビでの再生
M：10M	4240×2400画素	
S：5.1M	3008×1688画素	

ご注意

- [画質]でRAW画像を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。画面に画像サイズは表示されません。

パノラマ：画像サイズ

スイング撮影の画像サイズを設定します。「撮影方向」によって、サイズが異なります(93ページ)。

MENUボタン → 1 → [パノラマ：画像サイズ]または[3Dパノラマ：画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

パノラマ：画像サイズ

標準	撮影方向[上][下]：3872×2160 撮影方向[左][右]：8192×1856
ワイド	撮影方向[上][下]：5536×2160 撮影方向[左][右]：12416×1856

3Dパノラマ：画像サイズ

16：9	1920×1080
標準	4912×1080
ワイド	7152×1080

拡大して見る

静止画再生中に、画像の一部を拡大できます。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

1 拡大したい画像を表示して、⊕ ボタンを押す。

2 ⊕ ボタン、⊖ ボタンで希望の大きさに拡大する。

- コントロールダイヤルを回すと、同じ拡大倍率のまま、前後の画像に切り換えられる。同じ構図で複数枚撮ったとき、ピントの合い具合を比較できる。

3 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で、拡大表示する場所を選ぶ。

拡大再生を終了するには

コントロールボタンの中央を押すと、拡大前の画像に戻ります。

一覧表示で見る

同時に複数の画像を表示できます。

ボタンを押す。

一覧表示画面になる。

1枚再生画面表示に戻るには

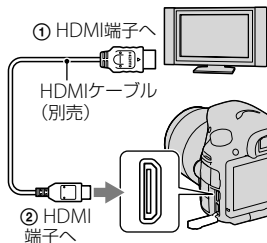
表示したい画像を選んでいる状態で、コントロールボタンの中央を押します。

希望のフォルダーを表示するには

コントロールボタンで左側のバーを選び、▲/▼で希望のフォルダーを選びます。また、左側のバーを選んでコントロールボタンの中央を押すと、ビューモードを切り換えることができます。

テレビで見る

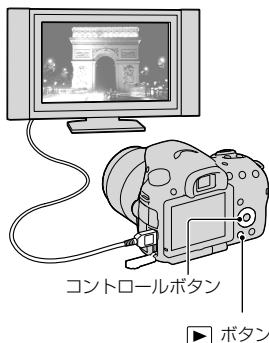
本機の画像をテレビで見るには、HDMIケーブル（別売）と、HDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。

1 電源を切った状態で、本機とテレビを接続する。

2 テレビの電源を入れ、入力を切り換える。

- テレビの取扱説明書も合わせてご確認ください。

3 本機の電源を入れて、▶ ボタンを押す。

撮影した画像がテレビに表示される。
コントロールボタンの◀/▶で画像を選ぶ。

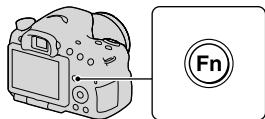
- 本機の液晶モニターは点灯しない。

ボタン/スイッチで選ぶ機能

下記のボタンを使って、それぞれの機能を設定、または操作できます。各ボタンの配置は「各部のなまえ」をご覧ください(14ページ)。

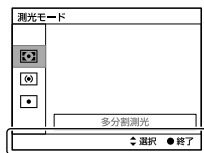
ボタン(41、126)	フラッシュ発光部を上げる。
ボタン(43)	露出を補正する。
ISOボタン(129)	ISO感度を設定する。
FINDER/LCD切り換えボタン(168)	液晶モニター表示とファインダー表示を切り換える。
MENUボタン(55)	メニュー画面を表示する。
MOVIEボタン(32、103)	動画を撮影する。
AELボタン(122)/AVボタン(99)/ボタン(49)/ボタン(48)	画面全体の露出を固定する/絞り値を設定する/画像を一覧表示する/再生時に拡大した画像を縮小する。
ボタン(142)/ピント拡大ボタン(117)/ボタン(48)	画像の中央部分を拡大表示する/撮影前に画像を拡大してピントを合わせる/再生時に画像を拡大する。
Fnボタン(52、53)/ボタン(150)	Fnボタンを使って設定する機能の設定画面を表示する/画像を回転する。
コントロールボタン	以下の機能を設定する:画面表示(45、81、148)、ホワイトバランス(138)、ドライブモード(44、143)、ピクチャーエフェクト(134)、オートフォーカス(109)。
ボタン(33)	画像を再生する。
ボタン(64)/ボタン(34)	撮影アドバイス、カメラ内ガイドを表示する/画像を削除する。
フォーカスモードスイッチ(109、115)	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り換える。
プレビューボタン(97)	背景のぼかし具合いを確認して撮る。

Fn（ファンクション）ボタンで選ぶ

撮影時に比較的使用頻度が高い設定、機能を実行します。

1 Fnボタンを押す。

2 設定したい項目を、コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で選択、●（中央ボタン）で決定する。

設定画面が表示される。

3 希望の機能を、操作ガイドにしたがって選択、決定する。

操作ガイド

撮影情報画面のまま設定するには

手順2で、●（中央ボタン）を押さずにコントロールダイヤルを回すと、撮影情報画面のまま機能を設定できます。

Fn（ファンクション）ボタンで選ぶ機能

Fnボタンで設定する機能は以下の通りです。

シーンセレクション（38、89）	撮影状況に合わせて用意されたモードを選ぶ。 （ポートレート/スポーツ/マクロ/風景/夕景/夜景/手持ち夜景/夜景ポートレート）
動画（105）	撮りたい被写体や効果に合わせて、露出モードを選んで撮影する。 （P/A/S/M）
ドライブモード（44、143）	連続撮影などの撮影方法を設定する。 （1枚撮影/連続撮影/セルフタイマー /連続ブラケット/1枚ブラケット/ホワイトバランスブラケット/リモコン）
フラッシュモード（41、126）	フラッシュの発光方式を設定する。 （発光禁止/自動発光/強制発光/スローシンクロ/後幕シンクロ/ワイヤレス）
オートフォーカスモード（112）	被写体の動きに応じたピント合わせの方法を選ぶ。 （シングルAF/AF制御自動切り換え/コンティニュアスAF）
フォーカスエリア（113）	ピント合わせの位置を選ぶ。 （ワイド/ゾーン/中央に固定/ローカル）
被写体追尾（114）	被写体を追尾してピントを合わせ続ける。 （切/入）
顔検出（118）	人の顔を自動でとらえ、ピントや露出を最適にする。 （切/入（登録顔優先）/入）

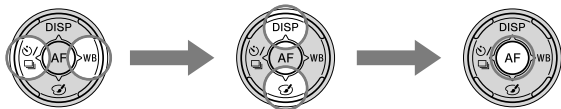
スマイルシャッター（120）	笑顔をとらえるたびに、自動撮影する。（入/切）
ISO感度（129）	明るさに対する感度を設定する。数値が大きいほど、シャッタースピードをより速くすることができる。（マルチショットノイズリダクション/ISO AUTO ～ 16000）
測光モード（123）	明るさを測る方法を選ぶ。（多分割測光/中央重点平均測光/スポット測光）
調光補正（123）	フラッシュの発光量を調整する。（＋2.0EV ～－2.0EV）
ホワイトバランス（138）	画像の色あいを調整する。（オートホワイトバランス/太陽光/日陰/曇天/電球/蛍光灯：温白色/蛍光灯：白色/蛍光灯：昼白色/蛍光灯：昼光色/フラッシュ /色温度/カラーフィルター /カスタム）
DRO/**オート**HDR（131）	明るさ、コントラストを自動補正する。（切/Dレンジオプティマイザー /オートHDR）
クリエイティブスタイル（136）	お好みの画像の仕上がりを選ぶ。（スタンダード/ビビッド/ポートレート/風景/夕景/白黒）
ピクチャーエフェクト（134）	好みの効果を選んで、より印象的な表現の画像を撮影できる。（切/トイカメラ/ポップカラー /ポスタリゼーション/レトロフォト/ソフトハイキー /パートカラー /ハイコントラストモノクロ/ソフトフォーカス/絵画調HDR/リッチトーンモノクロ/ミニチュア）

MENU（メニュー）ボタンで選ぶ設定

撮影、再生、操作方法などカメラ全体に関する基本設定を変更したり、機能の実行を行えます。
MENUボタンを押して、コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で選び、コントロールボタンの中央を押します。

メニューのページを選ぶ　メニューの項目を選ぶ

静止画撮影メニュー

1 2

画像サイズ（46）	静止画のサイズを選択する。 （L：24M/M：12M/S：6.0M（3：2のとき） L：20M/M：10M/S：5.1M（16：9のとき））
横縦比（161）	静止画の横縦比を選択する。 （3：2/16：9）
画質（161）	静止画の画質を設定する。 （RAW/RAW+JPEG/ファイン/スタンダード）
パノラマ：画像サイズ（46）	パノラマ画像のサイズを選択する。 （標準/ワイド）
パノラマ：撮影方向（93）	パノラマの撮影方向を設定する。 （右/左/上/下）
3Dパノラマ：画像サイズ（46）	3D画像のサイズを選択する。 （16：9/標準/ワイド）
3Dパノラマ：撮影方向（93）	3D画像の撮影方向を設定する。 （右/左）

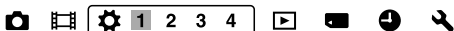
長秒時ノイズリダクション（163）	シャッタースピードを1秒以上にした場合のノイズ軽減処理を設定する。 （入/切）
高感度ノイズリダクション（163）	高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定する。 （強/標準/弱）
調光モード（124）	フラッシュの発光量を決める方法を設定する。 （ADI調光/P-TTL調光）
AF補助光（128）	暗い場所でピントを合わせるために使う補助光の設定をする。 （オート/切）
色空間（164）	再現できる色の範囲を変更する。 （sRGB/AdobeRGB）
手ブレ補正（86）	手ブレ補正の設定をする。 （入/切）
撮影アドバイス一覧（64）	撮影アドバイスの一覧を表示する。

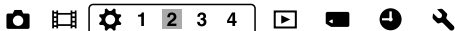
動画撮影メニュー

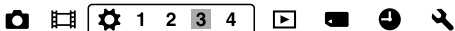
記録方式（106）	動画の記録方式を選択する。 （AVCHD 60i/60p/MP4）
記録設定（107）	動画のサイズを選択する。 （60i 24M（FX）/60i 17M（FH）/60p 28M（PS）/24p 24M（FX）/24p 17M（FH）/1440×1080 12M/VGA 3M）

音声記録（108）	動画撮影時、音声記録を行うかどうかを設定する。 （入/切）
風音低減（108）	動画撮影時、風音を低減する。 （入/切）
手ブレ補正（86）	手ブレ補正の設定をする。 （入/切）

カスタムメニュー

1 2 3 4

アイスタートAF（80）	ファインダーをのぞくと同時にオートフォーカスするかどうかを設定する。 （入/切）
FINDER/LCD切換設定（168）	ファインダーと液晶モニターの切り換え方法を設定する。 （オート/マニュアル）
赤目軽減発光	フラッシュ撮影時に目が赤く写るのを抑えるかどうかを設定する。 （入/切）
レンズなし時のレリーズ（164）	レンズを取り付けていない状態でシャッターが切れるかどうかを設定する。 （許可/禁止）
オートアドバンス連続撮影（88）	「AUTOアドバンス」時に連続撮影するかどうかを設定する。 （オート/切）
オートアドバンス画像抽出（88）	「AUTOアドバンス」時に連続撮影した画像をすべて保存するかどうかを設定する。 （オート/切）

1 2 3 4

グリッドライン（165）	構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示の設定をする。 （3分割/方眼/対角＋方眼/切）
オートレビュー（165）	撮影したあと、撮った画像を表示するオートレビューの設定をする。 （10秒/5秒/2秒/切）
DISPボタン（背面モニター）（81）	コントロールボタンのDISPを押して液晶モニターに表示する情報の種別を設定する。 （グラフィック表示/全情報表示/情報表示なし/水準器/ヒストグラム/ファインダー撮影用）
DISPボタン（ファインダー）（81）	コントロールボタンのDISPを押してファインダーに表示する情報の種別を設定する。 （グラフィック表示/全情報表示/情報表示なし/水準器/ヒストグラム）
ピーキングレベル（116）	ピントが合った部分の輪郭を指定された色で強調表示する設定をする。 （高/中/低/切）
ピーキング色（116）	輪郭を強調表示するピーキング表示の色を設定する。 （レッド/イエロー /ホワイト）
ライブビュー表示（83）	画面の見えかたに、露出補正などの設定値を反映するかどうかを設定する。 （設定効果反映On/設定効果反映Off）

1 2 3 4

AELボタンの機能（165）	AELボタンにお好みの機能を割り当てる。（露出補正/ドライブモード/フラッシュモード/オートフォーカスモード/フォーカスエリア/顔検出/スマイルシャッター /ISO感度/測光モード/調光補正/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/画像サイズ/画質/押す間AEL/再押しAEL/押す間スポットAEL/再押しスポットAEL/被写体追尾/AFロック/絞りプレビュー /撮影結果プレビュー /スマートテレコンバーター /ピント拡大）
ISOボタンの機能（166）	ISOボタンにお好みの機能を割り当てる。（露出補正/ドライブモード/フラッシュモード/オートフォーカスモード/フォーカスエリア/顔検出/スマイルシャッター /ISO感度/測光モード/調光補正/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/画像サイズ/画質/押す間AEL/再押しAEL/押す間スポットAEL/再押しスポットAEL/被写体追尾/AFロック/絞りプレビュー /撮影結果プレビュー /スマートテレコンバーター /ピント拡大）
プレビューボタンの機能（166）	プレビューボタンに割り当てる機能を選択する。（撮影結果プレビュー /絞りプレビュー）
フォーカスホールドボタンの機能	レンズのフォーカスホールドボタンの機能を設定する。（フォーカスホールド/プレビュー）

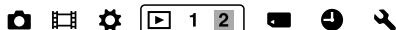
スマートテレコンバーターボタン（117、142）	ボタンに割り当てる機能を選択する。（スマートテレコンバーター /ピント拡大）

レンズ補正（周辺光量）（169）	レンズに起因する画面周辺が暗くなる現象を補正する。（オート/切）
レンズ補正（倍率色収差）（169）	レンズに起因する画面周辺部の色のずれを軽減する。（オート/切）
レンズ補正（歪曲収差）（169）	レンズに起因する画面の歪みを補正する。（オート/切）
電子先幕シャッター（167）	電子先幕シャッター機能を使用するかどうかを設定する。（入/切）
個人顔登録（119）	優先してピントを合わせる人物の登録・編集を行う。（新規登録/優先順序変更/削除/全て削除）

再生メニュー

削除（34、154）	画像を削除する。（画像選択/フォルダー内全て/AVCHDビュー動画全て）
ビューモード（150）	再生する画像のグルーピング方法を設定する。（フォルダービュー（静止画）/フォルダービュー（MP4）/AVCHDビュー）

スライドショー（151）	スライドショーをする。 （リピート/間隔設定/画像種別）
一覧表示（49）	画像を一覧表示する。 （4枚/9枚）
3D鑑賞（156）	3D対応テレビと接続して3D画像を再生する。
プロテクト（153）	画像の保護/解除の設定をする。 （画像選択/静止画全て解除/動画（MP4）全て解除/AVCHDビュー動画全て解除）
プリント指定（187）	プリントする画像の指定と解除をする。 （DPOF指定/日付プリント）

▶ 1 **2**

音量設定	動画再生の音量を設定する。
縦記録画像の再生（152）	縦記録画像の再生方法を設定する。 （縦向き/横向き）

メモリーカードツールメニュー

1

フォーマット（170）	メモリーカードを初期化する。
ファイル番号（170）	静止画と動画のファイル番号の付けかたを設定する。 （連番/リセット）
フォルダー形式（171）	静止画を記録するフォルダーの形式を設定する。 （標準形式/日付形式）
記録フォルダー選択（171）	静止画を記録するフォルダーを設定する。

フォルダー新規作成（172）	静止画と動画を記録する新しいフォルダーを作成する。
管理ファイル修復（172）	画像の管理ファイル修復を行い、記録・再生できるようにする。
メモリーカード残量表示	現在撮影可能な動画の時間と静止画の枚数を表示する。

時計設定メニュー

日時設定（27）	日時を設定する。
エリア設定（28）	使用する場所を設定する。

セットアップメニュー

メニュー呼び出し先	メニューの呼び出し先を変更する。リストの先頭、または最後に選んだ項目を呼び出すことができる。 （先頭/前回位置）
モニター明るさ（167）	液晶モニターの明るさを設定する。 （オート/マニュアル）
ファインダー明るさ（168）	ファインダーの明るさを設定する。 （オート/マニュアル）
GPS設定（158）	GPS機能についての設定をする。
パワーセーブ（168）	省電力モードになる時間を設定する。 （30分/5分/1分/20秒/10秒）
HDMI解像度（156）	HDMI対応テレビ接続時の解像度を設定する。 （オート/1080p/1080i）

HDMI機器制御（157）	ブラビアリンク対応テレビから本機を操作するための設定をする。 （入/切）

1 **2** 3

アップロード設定*（173）	Eye-Fiカードを利用した本機のアップロード機能を設定する。 （入/切）
USB接続（180）	USB接続の方法を設定する。 （オート/マスストレージ/MTP）
電子音	AF合焦時や、セルフタイマー作動時の電子音の有り無しを設定する。 （入/切）
クリーニングモード（190）	イメージセンサーの清掃をするためのクリーニングモードにする。

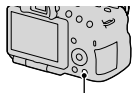
* Eye-Fiカード（別売）挿入時のみ表示されます。

1 2 **3**

バージョン表示（179）	本機のソフトウェアのバージョンを表示する。
モードダイヤルガイド	モードダイヤルガイド（各撮影モードの説明）の表示を設定する。 （入/切）
デモモード	動画のデモンストレーションの入/切を設定する。 （入/切）
設定リセット（175）	設定を初期値に戻す。 （設定値リセット/撮影モードリセット/カスタム設定リセット）

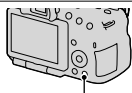
ガイドを見る

カメラ内ガイド

Fn画面やメニュー画面で ?（カメラ内ガイド）ボタンを押すと、選んだ機能、設定に関する説明を表示します。
また、無効になっている機能、設定をFn画面で選んで、コントロールボタンの中央を押すと有効になる条件を表示します。

?（カメラ内ガイド）ボタン

撮影アドバイス

選んでいる撮影モードに応じたアドバイスを表示します。

1 撮影情報画面が表示されているときに、?（カメラ内ガイド）ボタンを押す。

シーンに応じた撮影アドバイスの一覧が表示される。

? ボタン

2 コントロールボタンの▲/▼で、見たい撮影アドバイスを選んで中央を押す。

撮影アドバイスが表示される。
- ▲/▼で画面をスクロールできる。
- ◀/▶で項目を変更できる

撮影アドバイスを全部見るには

メニューから、すべての撮影アドバイスを表示することができます。
以前に見た撮影アドバイスを、もう一度見たいときに使います。

MENUボタン → 📷2 → ［撮影アドバイス一覧］ → 見たい撮影アドバイスを選ぶ。

- 見たい項目を［目次］から選んで表示することもできる。

パソコンを使う

本機で撮影した画像をいっそうご活用いただくために、CD-ROM（付属）には以下のソフトウェアが収録されています。

- 「Image Data Converter 」
- 「PMB」（Picture Motion Browser）

「PMB」をすでにインストールしているパソコンで、付属のCD-ROMのバージョンより小さい番号をご使用の場合は、付属のCD-ROMからもインストールしてください。

インストールに関するご注意は67ページもご覧ください。

ご注意

- 「PMB」は、Macintoshには対応しておりません。

パソコンの推奨環境（Windows）

付属ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

OS（工場出荷時にインストールされていること）	Microsoft Windows XP* SP3/Windows Vista SP2/Windows 7 SP1
「PMB」使用時	**CPU：**Intel Pentium Ⅲ 800 MHz以上 （HD動画再生・編集時はIntel Core Duo 1.66 GHz以上/Intel Core 2 Duo 1.66 GHz以上、Intel Core 2 Duo 2.26 GHz以上（HD FX/HD FH）、Intel Core 2 Duo 2.40 GHz以上（HD PS）） **メモリー：**512 MB以上（HD動画再生・編集時は1 GB以上） **インストール時に必要なハードディスク容量：**約500 MB **ディスプレイ：**1024×768ドット以上
「Image Data Converter Ver.4」使用時	**CPU/メモリー：**Pentium 4以上/1 GB以上 **ディスプレイ：**1024×768ドット以上

* 64bit版は除きます。ディスク作成機能のご使用には、Windows Image Mastering API（IMAPI）Ver.2.0 以上が必要です。

パソコンの推奨環境（Macintosh）

付属ソフトウェアを使ったり、USB接続で画像を取り込んだりするには下記の推奨環境が必要です。

OS（工場出荷時にインストールされていること）	**USB接続**：Mac OS X（v10.3、10.4、10.5、10.6） **「Image Data Converter Ver.4」**：Mac OS X（v10.5、10.6（Snow Leopard））
「Image Data Converter Ver.4」使用時	**CPU**：Intel Core Solo/Core Duo/Core 2 Duoなどのインテルプロセッサー **メモリー**：1 GB以上を推奨 **ディスプレイ**：1024×768ドット以上

ご注意

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- Hi-Speed USB（USB2.0準拠）のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（hi-speed転送）が行えます。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

ソフトウェアを使う

インストールする（Windows）

コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

1 パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

インストール画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、[コンピュータ]（Windows XPでは[マイコンピュータ]）→ （SONYPMB）→ [Install.exe]の順にダブルクリックする。
- 自動再生画面が表示される場合は、「Install.exeの実行」を選択し、画面の指示に従ってインストールする。

2 [インストール]をクリックする。

「Image Data Converter」と「PMB」にチェックが入っていることを確認して、画面の表示に従ってインストールする。

- 画面の指示に従ってカメラとパソコンを接続する（181ページ）。
- パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動する。
- 使用環境によって、DirectXが引き続きインストールされることがある。

3 インストール後、パソコンからCD-ROMを取り出す。

下記のソフトウェアがインストールされ、デスクトップにショートカットが表示される。
「Image Data Converter」
「PMB」
「PMBランチャー」
「PMBヘルプ」

ご注意

- 付属のCD-ROMのバージョンよりも大きい番号をご使用の場合はインストール不要です。本機とパソコンをUSB接続すると、使用できる機能が有効になります。
- お使いのパソコンに、すでにバージョン5.0.00未満の「PMB」がインストールされている場合は、本機に付属のCD-ROMから「PMB」をインストールすると、一部使用できなくなる機能があります。また、あわせてインストールされる「PMBランチャー」から「PMB」や他の様々なソフトウェアを起動できるようになります。「PMBランチャー」の起動には、デスクトップ上の （PMBランチャー）をダブルクリックします。

インストールする（Macintosh）

コンピュータの管理者権限でログオンした状態で行ってください。

1 Macintoshの電源が入った状態で、CD-ROM（付属）をディスクドライブに入れる。

2 CD-ROMアイコンをダブルクリックする。

3 [MAC]フォルダーの中の[IDC_INST.pkg]を任意のフォルダーにコピーする。

4 コピー先のフォルダーの中の[IDC_INST.pkg]をダブルクリックする。

以降、画面の指示に従ってインストールを進め、完了する。

「Image Data Converter」を使う

次のことなどができます。

- RAW画像を、トーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集
- ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの画像の調整
- 表示、編集した静止画をパソコンに保存
- RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式で保存する方法があります。
- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像の表示、比較
- 5段階でランク付け
- カラーラベルの設定

詳しい使いかたはヘルプをご覧ください。
[スタート] → [すべてのプログラム] → [Image Data Converter] → [ヘルプ] → [Image Data Converter Ver.4]

「PMB」を使う

次のことなどができます。

- 本機で撮影した画像のパソコンへの取り込み、表示
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧
- 静止画の補正（赤目補正など）、プリント、メール送信、撮影日時の変更
- 撮影した画像の位置情報を地図上に表示
- 画像に日付を挿入して保存、印刷
- パソコンに取り込んだAVCHDビュー動画から、ブルーレイディスク、またはDVD-Videoディスクの作成（ブルーレイディスク、DVD-Videoディスクの初回作成時には、インターネット接続環境が必要）。

ご注意

- 「PMB」は、Macintoshには対応しておりません。
- [記録設定]を[60p 28M（PS）]または[60i 24M（FX）]、[24p 24M（FX）]にして撮影した動画は、「PMB」でのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。 そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。
- AVCHDビュー動画とは、動画記録方式を[AVCHD 60i/60p]にして撮影した動画です。

詳しい使いかたは「PMBヘルプ」をご覧ください。
デスクトップ上の（PMBヘルプ）をダブルクリック、または[スタート] → [すべてのプログラム] → [PMB] → [PMBヘルプ]

「PMB」のサポート情報
http://www.sony.co.jp/pmb-sj/

動画ディスクの作りかたを選ぶ

本機で記録したAVCHDビュー動画からディスクを作成することができます。
ディスクの種類によって再生可能な機器が異なります。お使いの再生機器に合わせて、作成するディスクの種類を選択してください。
作成方法は、「PMB」を使ってパソコンで作成する方法と、DVDライターなどのパソコン以外の機器を使って作成する方法を紹介します。

再生機器	ディスクの種類	特徴
ブルーレイディスク再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）	Blu-ray	ブルーレイディスクには、ハイビジョン画質（HD）の動画をDVDディスクに比べ長時間記録できます。
AVCHD規格対応再生機器（ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション 3など）	AVCHD	ハイビジョン画質（HD）の動画をDVD-RなどのDVDディスクに記録して、ディスクを作成します。 • ハイビジョン画質のディスクは、一般的なDVDプレーヤーでは再生できません。
一般的なDVD再生機器（DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど）	STD	ハイビジョン画質（HD）の動画を標準画質（STD）に変換し、DVD-RなどのDVDディスクに記録して、ディスクを作成します。

パソコンで動画ディスクを作成する

「PMB」を使ってAVCHDビュー動画をパソコンに取り込み、ブルーレイディスク、AVCHDディスク、または標準画質（STD）のディスクを作成することができます。
「PMB」を使ったディスクの作りかたについての詳細は、「PMBヘルプ」をご覧ください。

ご注意

- ブルーレイディスクを作成するには、「PMB」インストール画面で「BD アドオンソフトウェア」をインストールする必要があります。
- ［記録設定］を［60p 28M（PS）］または［60i 24M（FX）］、［24p 24M（FX）］にして撮影した動画は、「PMB」でのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください（185ページ）。
- ［60p 28M（PS）］で撮影した動画から作成したブルーレイディスクを再生するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。
- AVCHDビュー動画とは、動画記録方式を［AVCHD 60i/60p］にして撮影した動画です。

パソコン以外の機器で動画ディスクを作成する

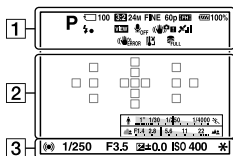
ブルーレイレコーダーやDVDライターでもディスクを作成することができます。
機器によって作成できるディスクの種類が異なります。

使用する機器		作成できるディスクの種類
	ブルーレイレコーダーを使ってブルーレイディスクや標準画質（STD）のディスクを作成する。	Blu-ray STD
	DVDirect Express以外のDVDライターを使ってAVCHDディスクまたは、標準画質（STD）のディスクを作成する。	AVCHD STD
	HDDレコーダーなどを使って標準画質（STD）のディスクを作成する。	STD

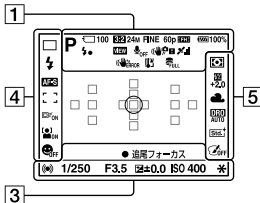
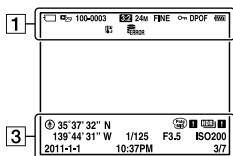
ご注意

- 作成方法の詳細は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製DVDirect（DVDライター）をお使いの場合、データの転送にはメモリーカードスロットとUSB接続が使えます。
- ソニー製DVDirect（DVDライター）を使うときは、DVDライターのファームウェアが最新版であることをご確認ください。
  詳しくは下記のURLをご覧ください。
  http://www.sony.jp/dvdirect/
- ［60p 28M（PS）］で撮影した動画からブルーレイディスクを作成するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。また、作成したブルーレイディスクを再生するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。

画面表示一覧

グラフィック表示（液晶モニター表示）

全情報表示（液晶モニター表示）

再生時（基本情報画面）

1

表示	意味
AUTO AUTO+ P A S M AUTO P A S M	撮影モード（36）
	シーン認識マーク（37、88）
OFF	メモリーカード（21、212）/アップロード（173）
100	撮影可能枚数
3:2 16:9	静止画の画像横縦比（161）
3D	3D撮影（39、92）
24M 12M 6.0M 20M 10M 5.1M WIDE STD 16:9	静止画の画像サイズ（46）
RAW RAW+J FINE STD	静止画の画質（161）
60p 60i 24p	動画のフレームレート（107）

表示	意味
FX FH PS 1080 VGA	動画の記録設定(107)
100%	バッテリー容量(22)
	フラッシュ充電表示(41)
VIEW	設定効果反映Off(83)
OFF	動画音声記録オフ(108)
OFF	手ブレ補正/手ブレ警告(86)
	GPS測位状況(158)
ERROR	手ブレ補正エラー(202)
	温度上昇警告(11)
FULL ERROR	管理ファイルフル警告(204)/管理ファイルエラー警告(204)
MP4 AVCHD	ビューモード(150)
100-0003	フォルダー番号ーファイル番号(182)
	プロテクト(153)
DPOF	DPOF(プリント)指定(187)
	バッテリー残量警告(22)

2

表示	意味
	スポット測光サークル(123)
	フォーカスエリア(113)
	スマートテレコンバーター(142)
1" 1/30 1/250 1/4000	シャッタースピードインジケーター(45)
F1.4 2.8 5.6 11 22	絞りインジケーター(45)

3

表示	意味
録画 0:12	動画の記録時間(分:秒)
	フォーカス(31、110)
1/250	シャッタースピード(97)
F3.5	絞り値(95)
−3··2··1··0··1··2··3+	測光インジケーター(43、100、146)(ファインダー表示のみ)
+3.0	露出補正値(43)
	AEロック(122)
	GPS情報
35° 37' 32"N 139° 44' 31"W	緯度・経度表示
HDR	オートHDR画像警告(132)

表示	意味
Pntg MID ! Rich BW !	ピクチャーエフェクトエラー（135）
ISO400	ISO感度（129）
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数
2011-1-1 10:37AM	撮影日時

4

表示	意味
Hi 10 BRK C 0.3EV BRK S 0.3EV BRK WB Lo	ドライブモード（44、143）
AUTO SLOW REAR WL HSS	フラッシュモード（41、126）/赤目軽減（57）
AF-A AF-S AF-C MF	フォーカスモード（112）
	フォーカスエリア（113）
ON OFF	被写体追尾（114）
OFF ON	顔検出（118）
ON OFF ON ON	スマイルシャッター（120）
	スマイル検出感度インジケーター（120）

5

表示	意味
	測光モード（123）
+2.0	調光補正（123）
AWB -1 0 +1 +2 WB 7500K A5 G5	ホワイトバランス（オート、プリセット、カスタム、色温度、カラーフィルター）（138）
D-R OFF DRO AUTO HDR AUTO	Dレンジオプティマイザー（131）/オートHDR（132）
Std. Vivid Port. Land. Sunset B/W +3 +3 +3	クリエイティブスタイル（136）/コントラスト、彩度、シャープネス
Toy Norm Pop Pos Pos Rtro SftH key Part R Part G Part B Part Y HC BW Soft Mid Pntg Mid Rich BW Mini AUTO OFF	ピクチャーエフェクト（134）

撮影モードごとの設定可能機能

選んでいる撮影モードによって、設定できない機能があります。
○は変更可能、×は変更不可能を表しています。
設定できない機能はグレーで表示されます。

撮影モード		露出補正（43）	セルフタイマー（144）	連続撮影（143）	顔検出（118）	スマイルシャッター（120）
AUTO（30、88）		×	○	○	○	○
（30、88）		×	○	○	○	○
AUTO+（37、88）		×	○	○	○	○
SCN（38、89）		×	○	×	○	○
		×	○	○	○	○
		×	○	×	○	○
		×	○	×	○	○
		×	○	×	○	○
		×	○	×	○	○
		×	×	×	○	×
		×	○	×	○	○
（39、92）		○	×	×	×	×
3D（39、92）		○	×	×	×	×
（40、94）		○	×	×	×	×
P（94）		○	○	○	○	○
A（95）		○	○	○	○	○
S（97）		○	○	○	○	○
M（99）		×	○	○	○	○
（32、103）		○*	○	○	○	×

* 「M」のときは設定できません。

使用可能なフラッシュモード

設定している撮影モードや機能によって、選べるフラッシュモードが異なります。
○は選択可能、×は選択不可能を表しています。
選べないフラッシュモードはグレーで表示されます。

撮影モード		（発光禁止）	AUTO（自動発光）	（強制発光）	SLOW（スローシンクロ）	REAR（後幕シンクロ）	WL（ワイヤレス）
AUTO（30、88）		○	○	○	×	×	×
（30、88）		○	×	×	×	×	×
AUTO+（37、88）		○	○	○	×	×	×
SCN（38、89）		○	○	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	○	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	×	×	×	×	×
		○	×	×	×	×	×
		×	○	×	×	×	×
（39、92）		○	×	×	×	×	×
3D（39、92）		○	×	×	×	×	×
10（40、94）		×	×	○	○	○	○
P（94）		×	×	○	○	○	○
A（95）		×	×	○	○	○	○
S（97）		×	×	○	○	○	○
M（99）		×	×	○	○	○	○
（32、103）		○	×	×	×	×	×

応用編

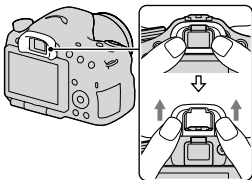
さらに詳しく本機の機能を説明しています。

カメラ本体の設定

アイカップを取りはずす

アングルファインダー FDA-A1AM（別売）を取り付けるときなどは、アイカップを取りはずします。

アイカップを取りはずす。

- アイカップの下部に指をおき、上方向にスライドさせる。

ご注意

- アングルファインダー FDA-A1AM（別売）を取り付けるときは、ファインダーの上のアイセンサーが作動することがあるため、[アイスタートAF]を[切]にして使用することをおすすめします。

撮影時の画面表示

使用する画面表示を選ぶ

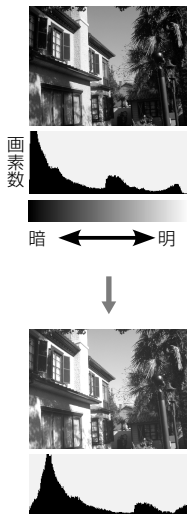
使用する画面表示を選ぶことができます。コントロールボタンのDISPを押して画面を切り換えると（45ページ）、選択した画面のみが表示されます。液晶モニターとファインダーは別に設定できます。

1 MENUボタン → ✿2 → [DISPボタン（背面モニター）]または[DISPボタン（ファインダー）]を選ぶ。

2 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で希望の画面を選んで、中央を押す。

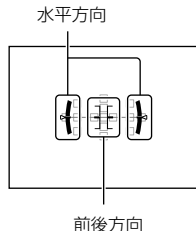
3 MENUボタンを押す。

ヒストグラム

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。
露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。
ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、撮影後、画像をパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正をしてから撮影してください。

ご注意

- ヒストグラムは、撮影結果ではなく、画面で見ている画像のヒストグラムになります。絞り値などにより結果が異なります。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとき大きく異なります。
  – フラッシュ発光したとき
  – 夜景などの低輝度な被写体のとき

水準器

カメラの前後左右の傾きを指標で示します。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になります。

ご注意

- 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなります。
- 傾きがほぼ補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。

撮影情報画面を見たままの表示にする

露出補正、ホワイトバランス、クリエイティブスタイル、ピクチャーエフェクトの設定値を反映させず、見たままの画面表示にします。

MENUボタン → ✿ 2 → [ライブビュー表示] → [設定効果反映Off] を選ぶ。

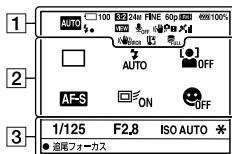
- [設定効果反映Off] を選択した場合は、「M」モードのライブビュー画像も常に適正な明るさで表示されます。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、「動画」、シーンセレクション時は [設定効果反映Off] に設定できません。

ファインダー撮影用の画面表示一覧

[DISPボタン(背面モニター)]で[ファインダー撮影用]を有効に設定すると、コントロールボタンのDISPを押して、ファインダーをのぞいて撮影するスタイルに適した液晶モニター表示にすることができます。
(　)の数字は、参照ページです。

AUTO、AUTO アドバンス、シーンセレクション時

連続撮影優先AE、P、A、S、M時

1

表示	意味
AUTO AUTO+ P A S M	撮影モード(36)
OFF	メモリーカード(21、212)/アップロード(173)
100	撮影可能枚数
3:2 16:9	静止画の画像横縦比(161)
3D	3D撮影(39、92)

表示	意味
24M 12M 6.0M 20M 10M 5.1M WIDE STD 16:9	静止画の画像サイズ(46)
RAW RAW+J FINE STD	静止画の画質(161)
60p 60i 24p	動画のフレームレート(107)
FX FH PS 1080 VGA	動画の記録設定(107)
100%	バッテリー容量(22)
●	フラッシュ充電表示(41)

表示	意味
VIEW	設定効果反映Off（83）
OFF	動画音声記録オフ（108）
OFF	手ブレ補正/手ブレ警告（86）
ERROR	GPS測位状況（158）
ERROR	手ブレ補正エラー（202）
	温度上昇警告（11）
FULL ERROR	管理ファイルフル警告（204）/管理ファイルエラー警告（204）

2

表示	意味
Hi 10 BRK C 0.3EV BRK S 0.3EV BRK WB Lo	ドライブモード（44、143）
AUTO SLOW REAR WL HSS	フラッシュモード（41、126）/赤目軽減（57）
AF-A AF-S AF-C MF	フォーカスモード（112）
	フォーカスエリア（113）
ON OFF	被写体追尾（114）
OFF ON	顔検出（118）
	測光モード（123）
AWB -1 0 +1 +2 WB 7500K A5 G5	ホワイトバランス（オート、プリセット、カスタム、色温度、カラーフィルター）（138）
D-R OFF DRO AUTO HDR AUTO	Dレンジオプティマイザー（131）/オートHDR（132）
Std. Vivid Port. Land. Sunset B/W +3 +3 +3	クリエイティブスタイル（136）コントラスト、彩度、シャープネス
Toy Norm Pop Pos Pos Rtro SftH key Part R Part G Part B Part Y HC BW Soft Mid Pntg Mid Rich BW Mini AUTO OFF	ピクチャーエフェクト（134）
ON OFF ON ON	スマイルシャッター（120）
MM	露出補正（43）/メータードマニュアル（100）
	調光補正（123）
-3··2··1··0··1··2··3+	測光インジケーター（43、100、146）

3

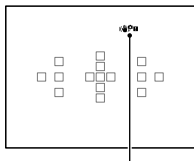
表示	意味
1/125	シャッタースピード（97）
F2.8	絞り値（95）
ISOAUTO	ISO感度（129）
✱	AEロック（122）

撮影準備（応用編）

手ブレを抑えてきれいに撮る

「手ブレ」とは、撮影時にカメラが動き、不鮮明な画像になる現象のことです。
手ブレを抑えるには、以下の方法があります。

手ブレ警告表示について

手ブレの恐れがある場合は、(手ブレ警告)表示が点滅します。この場合は、三脚、またはフラッシュを使ってください。

(手ブレ警告)表示

ご注意

- (手ブレ警告)表示は、自動でシャッタースピードを設定する撮影モードのときのみ表示されます。撮影モード「M」、「S」、動画撮影時は表示されません。

手ブレ補正機能を使う

本機は、本体内に手ブレ補正機能を搭載しており、手ブレを抑制します。機能の入/切は、静止画撮影時、動画撮影時それぞれで設定でき、お買い上げ時は[入]になっています。

MENUボタン → 2または 1 → [手ブレ補正] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 電源スイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ブレ補正の効果が得られにくいことがあります。

三脚を使う

以下のような環境では、三脚を使った撮影がおすすめです。

- 暗い場所で、フラッシュを使わずに撮影するとき
- 夜景撮影などシャッタースピードが遅いとき
- マクロ撮影などの近距離撮影のとき
- 望遠レンズで撮影するとき

ご注意

- 三脚を使う場合には、手ブレ補正機能が誤動作する恐れがあるため、手ブレ補正機能を[切]にしてください。

撮影モードの設定

AUTO オート/⊛（発光禁止）

モードダイヤルを AUTO （オート）にして撮影する（30ページ）。

- フラッシュ撮影が禁止されているような場所では ⊛ （発光禁止）にする。

ご注意

- 露出やISOなど、多くの機能がカメラまかせになり設定変更ができなくなります。これらの機能の設定を行うときは、モードダイヤルを「P」にして撮影してください。

AUTO+ AUTOアドバンス

モードダイヤルを AUTO+ （AUTOアドバンス）にして撮影する（37ページ）。

連続撮影を設定するには

MENUボタン → ✲1 → [オートアドバンス連続撮影] → 希望の設定を選ぶ。

連続撮影した画像の保存方法を設定するには

連続撮影した場合に、本機が判断した最適な画像を保存するか、すべての画像を保存するか設定できます。

MENUボタン → ✲1 → [オートアドバンス画像抽出] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 認識シーンで[手持ち夜景]が選択された場合は、[オートアドバンス画像抽出]を[切]にしても、保存される画像は合成された1枚になります。

• 画像抽出した場合、記録されなかった画像のファイル番号がスキップされます。

SCN シーンセレクション

こんなときに適しています

●撮影状況に合わせて用意された設定で撮る。

モードダイヤルを SCN（シーンセレクション）にして希望のモードを選び、撮影する（38ページ）。

（ポートレート）	背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。 • 背景をよりぼかすには、レンズを望遠側にする。 • レンズに近い方の目にピントを合わせると、いきいきした印象になる。 • 逆光のときは、レンズフードをつけて撮る。 • フラッシュで目が赤くなってしまうときは、赤目軽減機能（57ページ）を使う。
（スポーツ）	高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。 • シャッターボタンを半押ししたままシャッターチャンスを待つ。

(マクロ)	花や料理などに近づいて撮るときに適している。 • マクロレンズ(別売)を使えば、より近づいて撮影できる。 • 1 m以内で撮る場合は、フラッシュモードを発光禁止にする。 • 近距離撮影では、手ブレ補正の効果を得にくい。補正の効果が得られないときは三脚を使用する。 • ピントが合う最短距離は変わらない。
(風景)	風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。 • 風景の広大さをより強調するには、レンズを広角側にする。
(夕景)	夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。
(夜景)	暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。 • シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。 • 明かりの少ない全体的に暗い夜景のときは、写真がうまく仕上がらないことがある。

(手持ち夜景)	三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。 • 以下の場合はノイズを軽減する効果が弱くなる。 – 動きの大きな被写体 – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体 – 波や滝など、常に模様が変化する被写体 • 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがある。
(夜景ポートレート)	夜景を背景に手前の人物を撮る。 • シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。

撮影のテクニック

- より画像の仕上がりにこだわって撮影したい場合は、モードダイヤルを「P」、「A」、「S」、「M」にしてクリエイティブスタイル(136ページ)を使用すると、露出やISOなどの機能を自分で設定して撮影できる。

ご注意

- 露出やISOなど、多くの機能がカメラまかせになり設定変更できなくなります。
- フラッシュは各シーンセレクションモードごとに自動発光/発光禁止が設定されています。この設定を変更することもできます(41、126ページ)。

撮影(応用編)

スイングパノラマ/3D 3Dパノラマ

こんなときに適しています

●広大な景色や高層の建築物をそのままの迫力で撮る。
●奥行き感のある3D画像を撮って3D対応テレビで楽しむ。

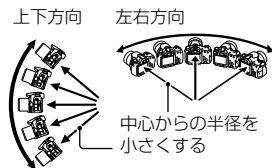
モードダイヤルを（スイングパノラマ）または 3D（3Dパノラマ）にして撮影する（39ページ）。

ご注意

- 一定時間内にパノラマ撮影画角に満たなかった場合、足りない部分はグレーで記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されます。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目がなめらかに記録できない場合があります。カメラを前後や左右に傾けないで、まっすぐに動かして撮影してください。
- 暗いシーンでは画像がブレたり、撮影ができない場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、合成された画像の明るさや色合いが一定ではなくなります。
- パノラマ撮影される画角全体と、AE/AFロックしたときの画角とで、明るさや色合い、ピント位置などが極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。
- 以下の場合はパノラマ撮影に適していません。
  – 動いている被写体
  – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
  – 波や滝など、常に模様が変化する被写体
  – 太陽や電灯など、周囲との明るさの差が大きい被写体
- 以下の場合はパノラマ撮影が中断されることがあります。
  – カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
  – ブレすぎた場合
- パノラマ撮影中は連続撮影となり、シャッター音が撮影終了まで鳴り続けます。

スイングパノラマ/3Dパノラマ撮影のポイント

一定の速度で円を描くように画面の矢印方向に動かしてください。パノラマ撮影は、止まっている被写体の撮影に適しています。

- パノラマ撮影には、広角レンズのご使用をおすすめします。
- 焦点距離が長いレンズを使用する場合は、広角レンズ使用時よりもゆっくりと動かしてください。
- シャッターボタンを半押しして、ピントや露出、ホワイトバランスをロックしてから、カメラを動かしてください。
- 複雑な形状や景色が画面の端に偏っていると、うまく合成できないことがあります。その場合は、それらが画面の中央になるように構図を調整して撮影してください。

3D画像について

3Dパノラマは、スイングパノラマと同様に、カメラを動かして複数の画像を撮影し、合成して3D画像を作成します。
3D対応テレビで再生できます。3D撮影について詳しくは211ページをご覧ください。

画像サイズを変更するには

画像サイズは、MENUボタン → 1 → [パノラマ：画像サイズ]または[3Dパノラマ：画像サイズ]で希望の設定を選べます。

撮影方向を変更するには

カメラを動かす方向を設定します。

MENUボタン → 1 → [パノラマ：撮影方向]または[3Dパノラマ：撮影方向] → 希望の設定を選ぶ。

連続撮影優先AE

こんなときに適しています

●動きの速い被写体を連続して撮り、瞬間をおさめる。
●刻々と変わる子供の表情を連続して撮り、お気に入りの画像を選ぶ。

モードダイヤルを（連続撮影優先AE）にして撮影する（40ページ）。

撮影のテクニック

- オートフォーカスモードを[コンティニュアスAF]にすると、撮影している間フォーカスと露出を合わせ続ける。ISOは希望の設定にできる。
- マニュアルフォーカスモード、またはオートフォーカスモードの[シングルAF]のときは、ISO感度と絞り値を設定できる。[シングルAF]のときのフォーカスは1枚目で固定される。

ご注意

- 顔検出は行いません。
- [オートHDR]に設定しているときは、一時的にDROの設定に従った処理が行われます。
- 速度は弊社測定条件によります。撮影条件によっては連続撮影の速度が遅くなります。

P プログラムオート

こんなときに適しています

●露出はカメラにまかせ、ISO感度、クリエイティブスタイル、Dレンジオプティマイザーなど、好みの設定に変更したい。

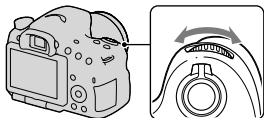
1 モードダイヤルを「P」にする。

2 撮影機能を希望の設定にする（109 ～ 147ページ）。

- フラッシュを発光したいときは ⚡ ボタンを押す。

3 ピントを合わせて撮影する。

プログラムシフト

カメラが設定した適性露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。
ピントを合わせた状態でコントロールダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。
撮影モード表示は、「P*」になります。

A 絞り優先

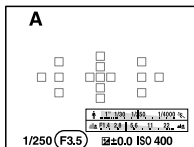
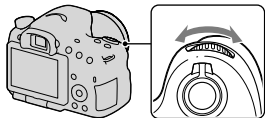
こんなときに適しています

●被写体だけをくっきりとさせて、前後をぼかしたい。絞りを開けるほど、ピントの合う範囲が狭くなる（被写界深度が浅くなる）。

●風景の奥行きを表したい。絞り込むほど、ピントの合う範囲が前後に広がる（被写界深度が深くなる）。

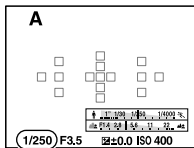
1 モードダイヤルを「A」にする。

2 コントロールダイヤルで、絞り値(F値)を選ぶ。

- 絞り値を小さくする：被写体の前後がぼける。
  絞り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。
- 液晶モニター/ファインダーの画像は変化しない。撮影した画像を確認して、絞り値を調整する。

絞り値(F値)

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードは自動で設定される。

- 設定した絞り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅する。この場合は、絞り値を変更する。

シャッタースピード

撮影のテクニック

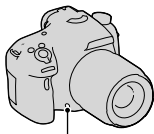
- 設定した絞り値によっては、シャッタースピードが遅くなる場合がある。シャッタースピードが遅いときは、三脚を使用する。
- 背景をよりぼかしたいときは、望遠レンズや、開放絞り値の小さいレンズ(明るいレンズ)を使う。
- プレビューボタンを押すと撮影前にぼかし具合を確認できる。

ご注意

- フラッシュを発光させたいときは、⚡ボタンを押してください。ただし、絞り値によって、フラッシュの届く範囲が異なります。フラッシュ撮影時は、「主な仕様」のフラッシュ光の届く範囲（調光距離）を確認してください。

背景のぼかし具合いを確認して撮るには（プレビューボタン）

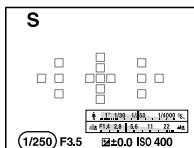
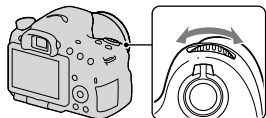
液晶モニター /ファインダーには、絞りが一番開いた状態の画像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合も変わるため、実際に撮影した写真のぼけ具合は撮影前に見ていた画像とは異なります。
プレビューボタンを押している間、設定した絞り値まで絞り込まれ、撮影前にぼけ具合を確認できます。

- ピントを合わせたあと、プレビューボタンを押す。
- プレビュー中に絞りを変更できる。

S シャッタースピード優先

こんなときに適しています

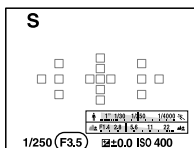
●一瞬を静止させたように撮りたい。シャッタースピードが速いほど、一瞬の動きを捉える。
●動きの軌跡を写し、躍動感や流動感を表現したい。シャッター速度が遅いほど、軌跡が写せる。

1 モードダイヤルを「S」にする。

2 コントロールダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

シャッタースピード

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

- 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅する。この場合は、シャッタースピードを変更する。

絞り値（F値）

撮影のテクニック

- シャッタースピードを遅くして撮るときは、三脚を使う。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くする。

ご注意

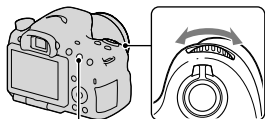
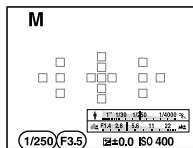
- シャッタースピード優先モードでは、（手ブレ警告）は表示されません。
- ISO感度は高くするほど、ノイズは増えます。
- シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影（長時間露光）すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。
- フラッシュを発光させたいときは、ボタンを押してください。ただし、シャッタースピードを遅くして絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。

M マニュアル露出

こんなときに適しています

●絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮る。

1 モードダイヤルを「M」にする。

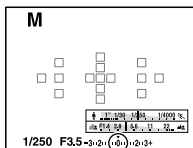
2 シャッタースピードを調整するときはコントロールダイヤルを回し、絞り値を選ぶときはAVボタンを押しながらコントロールダイヤルを回す。

3 露出を合わせて撮影する。

- ファインダーでの撮影時は、測光インジケーターで露出値を確認する（メータードマニュアル*）。
  +側：明るく写る
  −側：暗めに写る
  インジケーターの範囲を超えると◀▶が点灯し、さらに差が開くと点滅する。

* Mモード設定時、測光インジケーター表示部を利用して、適正露光に対するアンダー /オーバーを指標にて示します。

ファインダー撮影時

M

1" 1/30 1/250 1/4000
F1.4 2.8 5.6 11 22
1/250 F3.5 -3 2 1 0 1 2 3+

基準値

ご注意

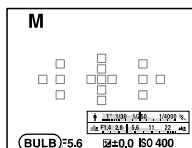
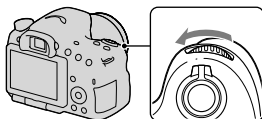
- マニュアルモードでは、（手ブレ警告）は表示されません。
- 撮影モードを「M」にすると、ISO感度の[AUTO]設定は[100]に切り換わります。「M」モードでは、ISO感度に[AUTO]はありません。必要に応じて、ISO感度を変更してください（129ページ）。
- フラッシュを発光させたいときは、ボタンを押してください。ただし、絞り値によって、フラッシュの届く範囲が異なります。フラッシュ撮影時は「主な仕様」のフラッシュ光の届く範囲（調光距離）を確認してください。

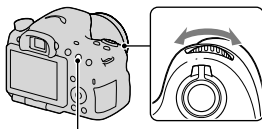
M バルブ撮影

こんなときに適しています

- 花火の光が尾を引くような画像を撮る。
- 星の軌跡を撮る。

1 モードダイヤルを「M」にする。

2 コントロールダイヤルを[BULB]が出るまで左に回す。

BULB

3 AVボタンを押しながらコントロールダイヤルで絞り値(F値)を選ぶ。

AVボタン

4 シャッターボタン半押しでピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

撮影のテクニック

- 三脚に取り付けて撮影する。
- 打ち上げ花火などのときは、マニュアルフォーカスにしてピントを無限遠にする。無限位置が分からないレンズの場合は、同じような場所に上がる花火であらかじめピントを決めて撮影する。
- ワイヤレスリモコン(別売)を使う(147ページ)。リモコンのSHUTTERボタンを押すとバルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了します。リモコンのSHUTTERボタンを押し続ける必要はありません。
- シャッターボタンのロック機能を持つリモートコマンダー(別売)を使用すると、リモートコマンダーでシャッターを開けたままにできる。

ご注意

- 三脚を使う場合は、手ブレ補正機能をオフにしてください(87ページ)。
- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理(長秒時ノイズリダクション)が行われます。処理中は撮影できません。
- スマイルシャッターまたはオートHDR、[ピクチャーエフェクト]の[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]を使用しているときは、シャッタースピードを[BULB]に設定できません。
- シャッタースピードを[BULB]に設定しているときに、[ピクチャーエフェクト]の[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]や、スマイルシャッター、オートHDRを使用すると、シャッタースピードは一時的に30秒になります。
- 画質を低下させずにバルブ撮影を行うためには、本機の温度が下がった状態で撮影を開始することをおすすめします。

動画撮影の設定

動画を簡単に撮影する

どの撮影モードからでも簡単に動画が撮影できます。
シャッタースピードと絞りは自動で設定されます。

MOVIE（動画）ボタンを押して撮影する（32ページ）。

撮影のテクニック

- ピントを合わせてから、録画を開始する。
- 以下の設定は、静止画撮影のときの設定値を使える。
  - ISO
  - ホワイトバランス
  - クリエイティブスタイル
  - 露出補正
  - フォーカスエリア
  - 測光モード
  - 顔検出
  - 被写体追尾
  - Dレンジオプティマイザー
  - レンズ補正（周辺光量）
  - レンズ補正（倍率色収差）
  - レンズ補正（歪曲収差）
  - ピクチャーエフェクト
- ISO、露出補正、被写体追尾、フォーカスエリアは撮影中に設定を変更できる。
- AELボタンまたはISOボタンに[AFロック]を割り当てると、オートフォーカスでの撮影中にボタンを押して、フォーカスを固定することができる。

ご注意

- 動画撮影時は静止画撮影時より撮影範囲(画角)が狭くなります。
- 液晶モニターの表示がファインダー撮影用の場合、動画撮影を開始すると全情報表示に切り換わります。
- カメラを太陽など強い光源に向けて撮影しないでください。カメラの内部が故障する恐れがあります。
- AVCHD方式で記録した動画をパソコンに取り込むときは、「PMB」を使用してください(65、181ページ)。
- 長時間、連続して撮影しつづけると、本機の温度が上昇し、画質が低下する場合があります。
- が表示された場合は本機の温度が上がっています。 本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってください。そのまま撮影を続けると、本機の電源が自動的に切れます。
- 絞りとシャッタースピードは自動で設定されるため、明るい環境下で高速シャッターとなり、被写体の動きが滑らかに写らない場合があります。マニュアルフォーカスにして、絞りやシャッタースピードを調整することで、より滑らかに撮影できる場合があります(115ページ)。
- 動画撮影時のISO感度は、ISO100 ～ 1600まで選べます。ISO1600よりも大きい設定値の状態で動画撮影を始めると、ISO1600に切り換わります。動画撮影を終えると元の設定値に戻ります。
- ISO感度を[マルチショットノイズリダクション]に設定しているときは、一時的に[AUTO]になります。
- [ピクチャーエフェクト]の[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]は設定できません。動画撮影が開始されると一時的に[効果OFF]になります。

絞りとシャッタースピードを設定して動画を撮影する

絞りやシャッタースピードを設定して、背景のぼかし具合や流動感を思い通りにコントロールした動画を撮影できます。

1 フォーカスモードスイッチを「MF」にする（115ページ）。

2 モードダイヤルを ⊞（動画）にする。

3 コントロールボタンの▲/▼で希望のモードを選び、中央を押す。

- 他のモードにするときは、Fnボタンを押して選び直す。

4 コントロールダイヤルで絞り値とシャッタースピードを設定する。

5 ピントを合わせ、MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影する。

⊞P（プログラムオート）（94）	露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定するが、その他の調整は自分で調整でき、設定した値は保持される。
⊞A（絞り優先）（95）	絞りをコントロールダイヤルで手動設定する。
⊞S（シャッタースピード優先）（97）	シャッタースピードをコントロールダイヤルで手動設定する。
⊞M（マニュアル露出）（99）	露出（シャッタースピードと絞り）をコントロールダイヤルで手動設定する。

記録方式

MENUボタン → 1 → ［記録方式］ → 希望のモードを選ぶ。

AVCHD 60i/60p	AVCHD規格の60i動画、24p動画、60p動画を記録する。ハイビジョンテレビで見るために適した記録方式。 付属のソフトウェア「PMB」を使ってブルーレイディスク、またはAVCHDディスク、DVD-Videoディスクを作成できる。 • 60iは、約60フィールド/秒、インターレース、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 24pは、約24フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 60pは、約60フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声で記録される。
MP4	mp4（AVC）動画を記録する。WEBアップロードやメールに適した記録方式。 • MPEG-4、約30フレーム/秒、プログレッシブ、AAC音声、mp4形式で記録される。 • ［記録方式］を［MP4］にして撮影した動画からは付属のソフトウェア「PMB」を使っても、ディスクを作成することはできません。

記録設定

平均ビットレートが高いほど、画質は向上します。

MENUボタン → 🎞1 → [記録設定] → 希望の設定を選ぶ。

[記録方式]が[AVCHD 60i/60p]のとき

記録設定	平均ビットレート	説明
60i 24M（FX）	24 Mbps	1920×1080（60i）の高画質で撮影する。
60i 17M（FH）	17 Mbps	1920×1080（60i）の標準画質で撮影する。
60p 28M（PS）	28 Mbps	1920×1080（60p）の最高画質で撮影する。
24p 24M（FX）	24 Mbps	1920×1080（24p）の高画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。
24p 17M（FH）	17 Mbps	1920×1080（24p）の標準画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。

[記録方式]が[MP4]のとき

記録設定	平均ビットレート	説明
1440×1080 12M	12 Mbps	1440×1080で撮影する。
VGA 3M	3 Mbps	VGAサイズで撮影する。

ご注意

- [記録設定]を[60p 28M（PS）]または[60i 24M（FX）]、[24p 24M（FX）]にして撮影した動画は、「PMB」でのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。 そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保

存してください。

- 60p、24pの動画をテレビで見るときは、60p、24pに対応したテレビが必要です。対応していないテレビの場合、60iとして出力されます。

音声の記録について

動画撮影中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。音声を記録しないように設定できます。

MENUボタン → 🎞1 → [音声記録] → [切]を選ぶ。

また、フォーカスモードをマニュアルフォーカスにすると、オートフォーカスの作動音を記録しないようにできます（115ページ）。

風音を低減するには

内蔵マイクからの入力音声の低域音をカットして、風音を低減できます。

MENUボタン → 🎞1 → [風音低減] → [入]を選ぶ。

ご注意

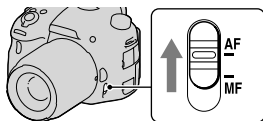
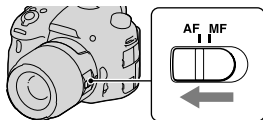
- [入]に設定すると低い音の一部も低減されてしまう場合があります。風音がない場合は[切]にしてください。
- 別売のマイク使用時は効果が得られません。

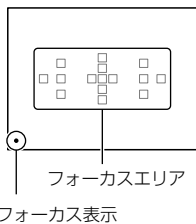
ピントを合わせる

ピント合わせには、オートフォーカスを使う方法と手動で合わせる方法(マニュアルフォーカス)があります。
レンズによって、オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り換え方法が異なります。

レンズの種類	切り換える場所	オートフォーカスにするには	マニュアルフォーカスにするには
フォーカスモードスイッチあり	レンズ (カメラ側のフォーカスモードスイッチは常に「AF」にする。)	レンズのフォーカスモードスイッチを「AF」にする。	レンズのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。
フォーカスモードスイッチなし	カメラ	カメラのフォーカスモードスイッチを「AF」にする。	カメラのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。

オートフォーカス

1 本機のフォーカスモードスイッチを「AF」にする。

2 レンズにフォーカスモードスイッチが付いている場合は、「AF」にする。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントの状態を確認して撮影する。

- ピントが合うと、フォーカス表示が●または (◉) になる(下記)。
- ピントが合ったフォーカスエリアが緑色になる。

ご注意

- オートフォーカス作動中は、レンズによってはフォーカスリングが回転しますので触れないでください。

撮影のテクニック

- ピント合わせに使うフォーカスエリアを選びたいときは、[フォーカスエリア]で設定する(113ページ)。

フォーカス表示の意味

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されている。撮影できる。
(◉) 点灯	ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。撮影できる。
( ) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターが切れない。
●点滅	ピントが合わず、シャッターが切れない。

ピントが合いにくい被写体

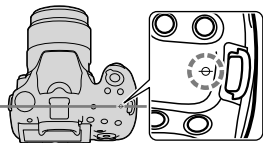
下記のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。フォーカスロック撮影(111ページ)またはマニュアルフォーカス撮影(115ページ)を行ってください。

- 青空や白壁などコントラストのないもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの

- 太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの
- 光量が不足しているとき

撮影距離を正確に測るには

本機上面の ⊖ マークがイメージセンサー *面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。

* イメージセンサー：デジタルカメラでフィルムの役割を果たす部分

ご注意

- お使いのレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていないか、確認してください。

フォーカスロック

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しする。

ピントが固定される。

- [オートフォーカスモード]は[シングルAF]にする。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。

3 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

オートフォーカスモード

Fnボタン → AF-A（オートフォーカスモード） → 希望の設定を選ぶ。

AF-S（シングルAF）	シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、ピントはそこで固定される。
AF-A（AF制御自動切り換え）	被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニュアスAFが切り換わる。 シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止しているときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。
AF-C（コンティニュアスAF）	シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。 • ピントが合ったときの電子音は鳴らない。 • フォーカスロックはできない。

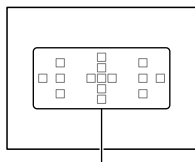
撮影のテクニック

- 動きのない被写体では、[シングルAF]を使う。
- 動いている被写体にピントを合わせるときは、[コンティニュアスAF]を使う。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクションの[ポートレート]、[風景]、[夕景]、[夜景]、[夜景ポートレート]、[手持ち夜景]では[AF制御自動切り換え]に固定されます。
- 撮影モード[スイングパノラマ]、[3Dパノラマ]、シーンセレクションの[マクロ]では[シングルAF]に固定されます。
- シーンセレクションの[スポーツ]、スマイルシャッター中は[コンティニュアスAF]に固定されます。

フォーカスエリア

撮影状況や好みに応じて、ピントを合わせやすいフォーカスエリアを選びます。ピントが合ったフォーカスエリアが緑色になり、それ以外のフォーカスエリアの表示が消えます。

フォーカスエリア

Fnボタン → [ ]（フォーカスエリア）→ 希望の項目を選ぶ。

[ ]（ワイド）	15個のフォーカスエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。
（ゾーン）	左側、中央付近、右側と3つに分けられたどのゾーンでピントを合わせるかをコントロールボタンで選ぶ。選んだゾーン中で使うフォーカスエリアを自動的に決定する。 AFボタンを押して選択画面を表示して選ぶ。
（中央に固定）	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
（ローカル）	15個のフォーカスエリアからピントを合わせるフォーカスエリアをコントロールボタンで選ぶ。 AFボタンを押して選択画面を表示して選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時、または被写体追尾中、スマイルシャッター使用時は[ワイド]に固定され、他のフォーカスエリアに変更できません。
- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、フォーカスエリアが点灯しないことがあります。

被写体追尾

被写体が動いても、自動でピントを合わせ続けます。お買い上げ時は被写体追尾機能は［入］になっています。

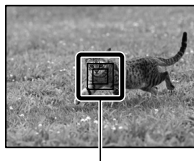
1 撮影情報画面でコントロールボタンの中央を押す。

ターゲット枠が表示される。

- 被写体追尾機能を［切］にするときはFnボタンを押して設定する。

2 ターゲット枠を追尾する被写体に合わせて、コントロールボタンの中央を押す。

追尾が開始される。

- 追尾を解除する場合は、もう一度中央を押す。

ターゲット枠

3 シャッターボタンを押し込み撮影する。

ご注意

- 以下のときは、被写体追尾機能がうまく働かないことがあります。
  - 動きが速すぎる被写体
  - 小さすぎる、または大きすぎる被写体
  - 被写体と背景が同系色
  - 暗いシーン
  - 明るさが変わるシーン
- 撮影モード「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、「連続撮影優先AE」、シーンセレクションの［手持ち夜景］、またはスマートテレコンバーター使用時、マニュアルフォーカスのときは被写体追尾を行えません。
- 追尾している被写体が画面から消えると、被写体追尾は解除されます。

顔を追尾するときは

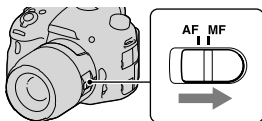
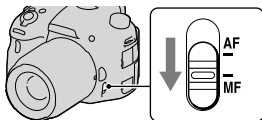
顔検出中の顔に被写体追尾を行うと、顔が画面から消えても、再び顔が画面に映った場合にはピントを合わせます。

- 顔を追尾しているときにスマイルシャッターを実行すると、その顔

だけがスマイル検出の対象になります。

マニュアルフォーカス

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。

2 レンズにフォーカスモードスイッチが付いてない場合は、本機のフォーカスモードスイッチを「MF」にする。

3 レンズのフォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。

ご注意

- ［フォーカスエリア］が［ワイド］のときは中央のエリアが、［ゾーン］のときは選んだゾーンの中の代表エリアが、［ローカル］のときは選んだエリアがピント合わせに使用されます。
- テレコンバーター（別売）使用時などは、フォーカスリングの回転が重くなる場合があります。
- ファインダー使用時は、視度調整が正しくないと、ファインダー上の正確なピントが得られません（29ページ）。
- マニュアルフォーカスのときは、レンズ側のフォーカスモードスイッチを必ず「MF」にしてください。切り換えずにフォーカスリングを無理に操作すると、故障の原因になります。

ピーキング

マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定した色で強調表示します。ピントを確認しやすくなります。

MENUボタン → ✿2 → [ピーキングレベル] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 画像のシャープな部分をピントが合ったと判断するため、被写体やレンズによって強調表示効果が異なります。
- HDMI接続時はピーキングが表示されません。

ピーキングの色を設定するには

マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を強調するピーキングの色を設定します。

MENUボタン → ✿2 → [ピーキング色] → 希望の設定を選ぶ。

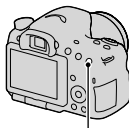
ご注意

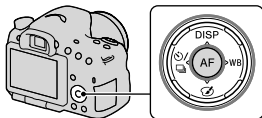
- [ピーキングレベル]が[切]のときは設定できません。

ピント拡大

撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

1 MENUボタン → ✿3 → [スマートテレコンバーターボタン] → [ピント拡大]を選ぶ。

2 ピント拡大ボタンを押す。

ピント拡大ボタン

3 さらにピント拡大ボタンを押して画像を拡大し、コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で拡大位置を調整する。

- ズーム倍率は、ピント拡大ボタンを押すたびに、全体表示 → 約5.9倍 → 約11.7倍に切り換わる。

4 ピントの確認、調整をする。

- マニュアルフォーカス時は、フォーカスリングを回してピントの調整を行う。
- AFボタンを押すと拡大位置が中央に戻る。
- シャッターボタンを半押しすると、拡大表示は解除される。

5 シャッターボタンを押し込み撮影する。

- 拡大表示中のときにシャッターボタンを押しても撮影できるが、記録される画像は全体表示の範囲になる。
- 撮影後、拡大表示は解除される。

顔を検出する

顔検出

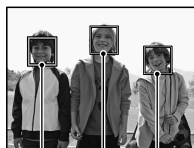
カメラが人物の顔を判別し、人物にあわせて、ピントや露出、画像処理、フラッシュの調整をします。

Fnボタン → （顔検出）→ 希望の設定を選ぶ。

切	顔検出機能を使わない。
入（登録顔優先）	［個人顔登録］で登録した顔を優先して顔検出を行う（119ページ）。
入	登録した顔を優先せずに顔検出を行う。

顔検出枠について

顔を検出すると、灰色の顔検出枠が表示され、オートフォーカス可能と判断されると枠が白色になり、シャッターボタンを半押しすると緑色になります。

- シャッターを半押ししたときに、オートフォーカス可能エリアに顔が検出されないときは、ピントを合わせたフォーカスエリアが緑色に表示されます。
- 複数の顔を検出した場合は、優先的に調整する顔を自動で選択し、1か所の顔検出枠が白色になります。それ以外の登録されている顔の検出枠は赤紫色になります。

撮影のテクニック

- 顔検出枠とフォーカスエリアが重なるように構図を工夫する。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、「連続撮影優先AE」時は顔検出機能を使用できません。
- 最大8人の顔を検出できます。
- 状況によっては、顔が検出されなかったり、顔以外を誤検出することがあります。
- スマイルシャッター撮影時は[顔検出]を[切]に設定していても一時的に[入(登録顔優先)]になります。

個人顔登録

顔情報を登録しておくと、登録した顔を優先して顔検出を行うことができます。

1 MENUボタン → ✿4 → [個人顔登録] → [新規登録]を選ぶ。

2 登録したい顔をガイド枠内に合わせて、シャッターボタンを押して登録する顔を撮影する。

3 コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央を押す。

- 最大8人の顔を登録できる。
- 明るい場所で、正面を向いた顔を撮影する。帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れると、正しく登録できないことがある。

登録した顔の優先順を変更するには

複数の顔を登録したときは優先順が設定されます。優先順を変更することができます。

MENUボタン → ✿4 → [個人顔登録] → [優先順序変更] → 優先順を変更する顔と変更先を選ぶ。

登録した顔を削除するには

登録した顔を削除できます。

MENUボタン → ✿4 → [個人顔登録] → [削除] → 削除する顔を選ぶ。

- [全て削除]を選ぶと、すべての顔をまとめて削除できます。
- [削除]を行っても、カメラ内に登録した顔のデータが残っています。カメラ内からも削除したい場合は、[全削除]を行ってください。

スマイルシャッター

笑顔を検出すると自動で撮影します。

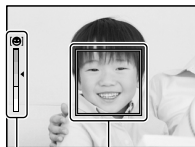
1 Fnボタン → ☻OFF（スマイルシャッター）→ [入] → 希望のスマイル検出感度を選ぶ。

☻ON（ほほ笑み）、☻ON（普通の笑顔）、☻ON（大笑い）の3段階で、笑顔を検出する感度を変更できる。

- スマイルシャッター作動中は、画面にスマイル検出感度インジケーターが表示される。

2 笑顔を待つ。

笑顔を検出し、ピントが合い、スマイルレベルがインジケーターの◀を超えると、自動で撮影される。

- スマイルシャッターの対象となる顔を認識するとオレンジ色の顔検出枠が表示され、ピントの合っている顔検出枠が緑色になる。

顔検出枠（オレンジ色）

スマイル検出感度インジケーター

3 終了するときは、Fnボタン → ☻ON（スマイルシャッター）→ [切]を選ぶ。

撮影のテクニック

- 笑顔にピントを合わせるには、顔検出枠とフォーカスエリアが重なるようにする。
- 前髪が目にかからないようにし、目は細めにする。
- 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。
- カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。
- 口をあけてしっかり笑う。歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。
- スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、[3Dパノラマ]、「連続撮影優先AE」、[動画撮影]、シーンセレクションの[手持ち夜景]、マニュアルフォーカス時は使用できません。
- ドライブモードは[1枚撮影]または[リモコン]のみになります。
- スマイルシャッター使用時はAF補助光が作動しません。
- 笑顔が検出されない場合はスマイル検出感度を設定してください。
- 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。
- 被写体追尾で顔を追尾しているときにスマイルシャッターを実行すると、その顔だけがスマイル検出の対象になります（114ページ）。

明るさを調整する

AEロック

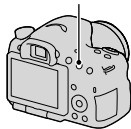
逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所で測光し、被写体をより明るくしたいときは被写体よりも暗い箇所で測光し、画面全体の露出を固定します。
ここでは、測光モードを (スポット測光)にして被写体をより明るく撮る例で説明します。

1 Fnボタン → (測光モード) → (スポット測光)を選ぶ。

2 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。

3 AELボタンを押して、露出を固定する。

✱ (AEロックマーク)が点灯する。

- 測光インジケーターには、固定された露出を基準にしたスポット測光サークル内の測光値も表示される。

• 1/500 F4.5 ±0.0 ISO 400 ✱

4 AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ、撮影する。

- 露出値を一定に保ったまま連続で撮影するときは、撮影後もAELボタンを押したままにする。指を離すと露出固定は解除される。

測光モード

Fnボタン → ◙（測光モード）→ 希望の設定を選ぶ。

◙（多分割測光）	複数に分割した画面を各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する。
◙（中央重点平均測光）	画面の中央部に重点をおきながら、全体の明るさを平均的に測光する。
◙（スポット測光）	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行う。

撮影のテクニック

- 一般的な撮影では、[多分割測光]を使う。
- フォーカスエリア内に明暗の差が大きい被写体がある場合は、適正な明るさで写したい被写体の露出をスポット測光で測って、AEロック撮影をする（122ページ）。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時、スマートテレコンバーター中は、[多分割測光]に固定され、他の測光モードに変更できません。

調光補正

フラッシュ撮影時は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量を調整することで、フラッシュ光が届く主被写体の露出を変更できます。

Fnボタン → ◙（調光補正）→ 希望の数値を選ぶ。

＋側：発光量を増やす。
－側：発光量を減らす。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、シーンセレクション時は設定できません。
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近より遠くにあるときは、オーバー側（＋側）の効果が出ないことがあります。また、近接撮影ではアンダー側（－側）の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッタースピード・絞り値・ISO感度（AUTOの場合）が変化することによって補正が行われます。
調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。

調光モード

MENUボタン → 2 → ［調光モード］ → 希望の設定を選ぶ。

ADI調光	フォーカスの距離情報とプリ発光による光量測定結果を組み合わせてフラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光ができる。
P-TTL調光	プリ発光による光量測定結果だけでフラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射による影響を受けやすい。

ADI：Advanced Distance Integrationの略
P-TTL：Pre-flash, Through the lensの略

- ［ADI調光］で、距離エンコーダー搭載レンズを用いると、より正確な距離情報をもとに、高精度な調光ができる。

ご注意

- 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合（外部フラッシュ（別売）でワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行う場合や、マクロツインフラッシュ使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。

- 以下の場合は[ADI調光]だと正しい調光が得られませんので、[P-TTL調光]に設定してください。
  - フラッシュ HVL-F36AMにワイドパネルを取り付けた場合
  - ディフューザー（拡散板)を使ってフラッシュ撮影した場合
  - 露出倍数のかかるフィルター（NDなど)使用時
  - クローズアップレンズ使用時
- ADI調光は距離エンコーダー内蔵レンズとの組み合わせで可能です。距離エンコーダー内蔵かどうかは、レンズの取扱説明書の主な仕様をご覧ください。
- 撮影モード「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、シーンセレクションの[夜景]、[手持ち夜景]時は設定できません。

フラッシュについて

Fnボタンを押して⚡(フラッシュモード)の希望の設定を選び、⚡ボタンを押して撮影する(41ページ)。

撮影のテクニック

- フラッシュ発光時はレンズフードでフラッシュ光がさえぎられ、画像に影が写ることがあるため、レンズフードを取りはずす。
- フラッシュ発光時は被写体から1 m以上離れて撮影する。
- 屋内での撮影や夜景撮影時、スローシンクロを使うと、人物と背景が明るく撮れる。
- 後幕シンクロを使って、走っている自転車など、動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。
- フラッシュ HVL-F58AM (別売) /HVL-F43AM (別売)を使うとシャッタースピード全域でフラッシュ撮影が可能なハイスピードシンクロ撮影ができる。詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- フラッシュ発光部をつかんで本機を持たないでください。
- 使用レンズにより、画像に影が写らない撮影条件は異なります。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時は、[スローシンクロ]、[後幕シンクロ]、[ワイヤレス]の設定はできません。
- 撮影モード「P」、「A」、「S」、「M」、「連続撮影優先AE」時は、[発光禁止]、[自動発光]の設定はできません。フラッシュを発光させたくないときは、発光部を下げてください。
- ステレオマイクロホンなどをオートロックアクセサリーシューに取り付けたままフラッシュを使うと、フラッシュ発光部が正常位置まで上がらず、画像に影が写ることがあります。ステレオマイクロホンなどを取りはずしてください。

ワイヤレスフラッシュ

ワイヤレス撮影機能のあるフラッシュ（別売）を使うと、本機からフラッシュを取りはずした状態で、コードを使わずにフラッシュ撮影ができます。フラッシュの位置を工夫すると、被写体に陰影がつき、立体感がでます。
撮影の手順は、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

1 ワイヤレスフラッシュをオートロックアクセサリーシューに取り付け、本機とフラッシュの電源を入れる。

2 Fnボタン → ⚡（フラッシュモード）→ ⚡WL（ワイヤレス）を選ぶ。

3 ワイヤレスフラッシュを、オートロックアクセサリーシューからはずし、本機のフラッシュを上げる。

- テスト発光するには、本機のAELボタンを押す。

ご注意

- ワイヤレスフラッシュ撮影後は、ワイヤレスフラッシュを解除しておいてください。ワイヤレスフラッシュ設定のまま内蔵フラッシュで撮影すると、適正露出を得られません。
- ワイヤレスフラッシュ撮影している別のカメラの信号光を、ワイヤレスフラッシュが受信してフラッシュが発光してしまう場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

AELボタンの設定について

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、⚙ カスタムメニューの［AELボタンの機能］（165ページ）を、［押す間AEL］に設定しておくことをおすすめします。

ワイヤレス光量比制御について

対応する複数のフラッシュと組み合わせて、ワイヤレス光量比制御も行えます。 詳しくはフラッシュ（HVL-F58AM、HVL-F43AM）の取扱説明書をご覧ください。

AF補助光

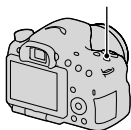
暗い場所でピントを合わせるために使う補助光を設定できます。

MENUボタン → 📷2 → [AF補助光] → 希望の設定を選ぶ。

- [オートフォーカスモード]が AF-C（コンティニュアスAF）のとき、AF-A（AF制御自動切り換え）で被写体が動いているとき（フォーカス表示 (●) または ( ) が点灯しているとき）は、AF補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300 mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。
- AF補助光機能のある外部フラッシュ（別売）を取り付けているときは、取り付けているフラッシュのAF補助光が発光します。本機の内蔵フラッシュ発光部は下げてください。
- スマイルシャッターが[入]のとき、AF補助光は発光しません。

ISO感度を設定する

光に対する感度は、ISO感度（推奨露光指数）で表します。数値が大きいほど高感度になります。

1 ISOボタンを押して、ISO感度画面を表示する。

2 コントロールボタンの▲/▼で希望の設定を選ぶ。

- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増える。
- ［マルチショットノイズリダクション］を選んだ場合は、▶で設定画面を表示して、▲/▼で希望の数値を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、シーンセレクション時は、ISO感度は「AUTO」に固定され、希望のISO感度に変更できません。
- 撮影モード「P」、「A」、「S」時、ISO感度を「AUTO」にすると、ISO 100 ～ 1600の値で自動設定されます。
- 撮影モード「M」には、ISO感度「AUTO」の設定がありません。「AUTO」の状態で撮影モードを「M」に切り換えると、「100」に切り換わります。撮影状況にあわせて、ISO感度を設定し直してください。

マルチショットノイズリダクション

自動的に複数枚の連写を行い、画像を合成し、ノイズを軽減して記録します。
マルチショットノイズリダクションでは最大ISO感度よりも感度を上げることができます。
記録される画像は合成された1枚のみです。

ご注意

- [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- フラッシュ、Dレンジオプティマイザー、[オートHDR]は使用できません。

明るさ、コントラストを自動補正する（Dレンジ）

Fnボタン → D-R OFF（DRO/オートHDR）→ 希望の設定を選ぶ。

D-R OFF（切）	DRO/オートHDR機能を使わない。
DRO（Dレンジオプティマイザー）	被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にする。
HDR（オートHDR）	露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にする。 適正露出画像と、合成された画像の2枚が記録される。

Dレンジオプティマイザー

1 Fnボタン → D-R OFF（DRO/オートHDR）→ DRO（Dレンジオプティマイザー）を選ぶ。

2 コントロールボタンの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

DRO AUTO（オート）	本機が自動で調整する。
DRO（レベル設定）*	撮影画像の階調を、画像の領域ごとに最適化する。Lv1（弱）～ 5（強）で最適化レベルを選ぶ。

* DRO と一緒に表示されるLv_は、現在の設定値。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、または［マルチショットノイズリダクション］、［ピクチャーエフェクト］時は「切」に固定されます。
- シーンセレクションの［夕景］、［夜景］、［夜景ポートレート］、［手持ち夜景］では［切］に固定されます。これら以外のシーンセレクションでは［オート］に固定されます。
- Dレンジオプティマイザー動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

オートHDR

1 Fnボタン → （DRO/オートHDR） → （オートHDR）を選ぶ。

2 コントロールボタンの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

（露出差オート設定）	本機が自動で調整する。
（露出差レベル設定）＊	被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。 1.0Ev（弱）～ 6.0Ev（強）で最適化レベルを選ぶ。 例：2.0Evでは－1.0Evの画像、適正露出の画像、＋1.0Evの画像の3枚が合成される。

＊ と一緒に表示される_Evは、現在の設定値。

撮影のテクニック

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意する。
  – 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する。
  – 構図が変わらないように撮影する。

ご注意

- RAW画像には設定できません。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、「連続撮影優先AE」、シーンセレクション、[マルチショットノイズリダクション]時は[オートHDR]を設定できません。
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラが検出できた場合は、再生画像に HDR ! を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

画像の仕上がりを設定する

ピクチャーエフェクト

好みの効果を選んで、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できます。

コントロールボタンの （ピクチャーエフェクト）→ 希望のモードを選ぶ。

- さらに詳細な設定ができるモードを選んだ場合は、◀/▶で希望の設定を選ぶ。

（切）	効果を使用しない。
（トイカメラ）	周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。◀/▶で色合いを設定できる。
（ポップカラー）	色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。
（ポスタリゼーション）	原色のみ、または白黒のみで再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。◀/▶で[モノクロ]か[カラー]かを選択できる。
（レトロフォト）	古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。
（ソフトハイキー）	明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持ったような仕上がりになる。
（パートカラー）	1色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。◀/▶で残す色を設定できる。

(ハイコントラストモノクロ)	明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。
(ソフトフォーカス)	柔らかな光につつまれたような雰囲気の仕上がりになる。◀/▶で効果の強弱を設定できる。
(絵画調HDR)	絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになる。3回シャッターが切れる。◀/▶で効果の強弱を設定できる。
(リッチトーンモノクロ)	階調が豊かでディテールも再現されたモノクロに仕上がる。3回シャッターが切れる。
(ミニチュア)	ミニチュア模型を撮影したようにボケが大きく、鮮やかな仕上がりになる。◀/▶でボケる位置を設定できる。

ご注意

- [スマートテレコンバーター]使用時は[トイカメラ]、[ミニチュア]の効果は得られません。
- [パートカラー]のとき、被写体や撮影条件によっては設定した色が残らないことがあります。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「連続撮影優先AE」、「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、または[画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- [絵画調HDR]、[ミニチュア]、[リッチトーンモノクロ]、[ソフトフォーカス]のときは、撮影前に効果を確認できません。また、[ドライブモード]は設定できません。
- [絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]ではコントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合に良好な結果が得られない場合があります。カメラが検出できた場合は、再生画像に ! を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

クリエイティブスタイル

画像スタイルを選んで、画像の仕上がりを設定でき、各画像スタイルごとにコントラスト、彩度、シャープネスを微調整できます。カメラまかせで撮影するシーンセレクションと異なり、露出(シャッタースピード/絞り)なども調整できます。

1 **Fnボタン → Std.（クリエイティブスタイル）→ 希望の設定を選ぶ。**

2 **◑（コントラスト）、⊛（彩度）、◫(シャープネス)を調整したいときは、コントロールボタンの◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で値を選ぶ。**

Std.（スタンダード）	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。
Vivid（ビビッド）	彩度・コントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
Port.（ポートレート）	肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
Land.（風景）	彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。
Sunset（夕景）	夕焼けの赤さを美しく表現する。
B/W（白黒）	白黒のモノトーンで表現する。

◑（コントラスト）、⊛（彩度）、◫(シャープネス)は、クリエイティブスタイルごとに調整できます。

◑（コントラスト）	＋側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。
（彩度）	＋側にするほど色が鮮やかになる。－側に設定すれば、控えめで落ち着いた色に再現される。
（シャープネス）	解像感を調整できる。＋側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、－側に設定すればやわらかな表現になる。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション、または［ピクチャーエフェクト］時は、［スタンダード］に固定され、他のクリエイティブスタイルに変更できません。
- ［白黒］を選択しているときは、彩度の調整はできません。

色合いを調整する（ホワイトバランス）

被写体の色合いは、被写体を照らしている光の特性によって異なります。太陽光のもとで白く見えるものを基準にすると、下図のように色合いが変化します。

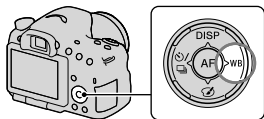
天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
光の特性	白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

画像の色合いが思ったとおりにならなかったときや、意図して色合いを変化させて雰囲気を表現したいときにホワイトバランス機能を使います。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時は、[オートホワイトバランス]に固定され、他のホワイトバランスモードに変更できません。
- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られないため、フラッシュを発光して撮影してください。

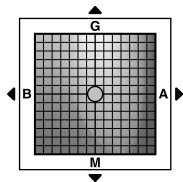
コントロールボタンのWB → 希望の設定を選ぶ。

- [色温度&カラーフィルター]以外を選んだときは、▶を押すと、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できる。▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する。

AWB（オートホワイトバランス）	光源が自動判別され、適した色合いになる。
（太陽光）	被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色合いになる（プリセットホワイトバランス）。
（日陰）	
（曇天）	
（電球）	
-1（蛍光灯：温白色）	
0（蛍光灯：白色）	
+1（蛍光灯：昼白色）	
+2（蛍光灯：昼光色）	
（フラッシュ）	

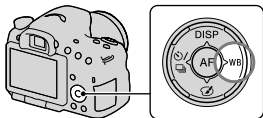
撮影のテクニック

- 選んだ設定では、思ったような色が出ないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行う（146ページ）。
- ［色温度&カラーフィルター］を選ぶと、希望の数値に設定できる（140ページ）。
- ［カスタム］を選ぶと、設定したホワイトバランスを登録できる（141ページ）。

色合いの微調整画面について

色温度とカラーフィルターの組み合わせで色合いの微調整ができます。

色温度	コントロールボタンの◀でブルー（B）方向、▶でアンバー（A）方向に微調整できる。
カラーフィルター	コントロールボタンの▲でグリーン（G）方向、▼でマゼンタ（M）方向に微調整できる。

色温度&カラーフィルター

1 コントロールボタンのWB → (色温度&カラーフィルター) → ▶を押す。

2 コントロールボタンの▲/▼で色温度を設定する。

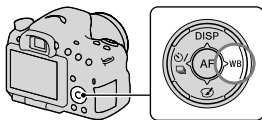
3 ▶を押して微調整画面を表示し、▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する。

ご注意

- カラーメーターは、フィルムカメラ用のため、蛍光灯/ナトリウム灯/水銀灯の光源下では、異なった値になります。カスタムホワイトバランスの使用、または試し撮りをおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

1 コントロールボタンのWB → [SET] → コントロールボタンの中央を押す。

2 白く写したいものが中央部のフォーカスエリア付近を覆うようにカメラを構えてシャッターボタンを深く押し込む。

シャッター音がして、取り込んだ値（色温度とカラーフィルター）が表示される。

3 コントロールボタンの中央を押す。

登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。

- この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持される。

ご注意

- 「カスタムWB設定エラー」というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。値は登録され、撮影情報画面の 表示が黄色になります。撮影はできますが、設定し直すことをおすすめします。

登録したカスタムホワイトバランスを呼び出すには

コントロールボタンのWB → （カスタム）を選ぶ。

- ▶を押すと、微調整画面が表示され、色合いを微調整できる。

ご注意

- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

ワンプッシュでズームする(スマートテレコン)

スマートテレコンバーター(デジタルズーム)を使って画像の中央部分を拡大表示し、記録できます。

ボタンを押す。

- ズーム倍率は、ボタンを押すたびに、約1.4倍 → 約2倍 → オフに切り換わる。

ズーム倍率によって、選択している画像サイズとは関係なく、以下の値に自動設定される。

ズーム倍率	画像サイズ
約1.4倍	M
約2倍	S

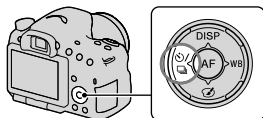
ご注意

- 以下の場合は、スマートテレコンバーターは使用できません。
  - 撮影モード「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」のとき
  - [スマートテレコンバーターボタン]が[ピント拡大]のとき
  - [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のとき
  - スマイルシャッターが[入]のとき
- スマートテレコンバーター中は[フォーカスエリア]が[中央に固定]になります(オートフォーカス時)。
- スマートテレコンバーター中は[測光モード]が[多分割測光]になります。
- 動画撮影中は、スマートテレコンバーターは使えません。

◎/▣ドライブモードの機能を使う

1枚撮影

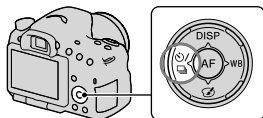
通常の撮影方法です。

コントロールボタンの◎/▣ → □（1枚撮影）を選ぶ。

ご注意

- シーンセレクションの[スポーツ]を選んでいるときは、1枚撮影できません。

連続撮影

連続して撮影します。

1 コントロールボタンの◎/▣ → ▣（連続撮影） → 希望の速度を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。

撮影のテクニック

- より高速で連写するには、撮影モードを「連続撮影優先AE」にする（40、94ページ）。

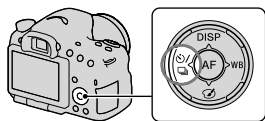
ご注意

- ▢Hi のときは、連写のコマ間に撮影された画像が表示されます。
- シーンセレクションの場合、［スポーツ］以外のモードでは連続撮影できません。

セルフタイマー

10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーは、撮影の際のカメラブレを和らげるのに便利です。

1 コントロールボタンの ⏲/▢ → ⏲（セルフタイマー）→ 希望の設定を選ぶ。

- ⏲ の横の数値は、現在選択されているセルフタイマーの設定。

2 ピントを合わせてシャッターボタンを押し込む。

- セルフタイマー作動中は、電子音とセルフタイマーランプで動作状況を知らせる。撮影直前になると、セルフタイマーランプの点滅と電子音が速くなる。

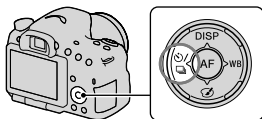
セルフタイマーを中止するには

コントロールボタンの ⏲/▢ を押します。

連続ブラケット/1枚ブラケット

基準となる露出　　−に補正　　＋に補正

露出を段階的にずらして撮影することをブラケット撮影といいます。基準の露出に対して、上下にずらす値の幅（段数）を指定すると、自動的に露出値をずらして合計3枚の画像を撮影します。

1 コントロールボタンの ◌/◌ → BRK C（連続ブラケット）または BRK S（1枚ブラケット）→ 希望の段数を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

基準の露出は1枚目で設定される。

- ［連続ブラケット］の場合は、撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続ける。
- ［1枚ブラケット］の場合は、1枚ずつシャッターを押して撮影する。

ご注意

- モードダイヤルが「M」のときは、シャッタースピードを変化させて、露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正している露出を基準に、露出をずらして撮影されます。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「連続撮影優先AE」、「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」またはシーンセレクションを選んでいるときは、ブラケット撮影はできません。
- フラッシュ発光時はフラッシュブラケットになり、調光量をずらして撮影します。このときは［連続ブラケット］時も1枚ずつシャッターボタンを押して撮影します。

ブラケット撮影時の測光インジケーター

	定常光*ブラケット 段数0.3段　3枚 露出補正±0.0段	フラッシュブラケット 段数0.7段　3枚 調光補正－1.0段
ファインダー	−3・2・1・0・1・2・3+	−3・2・1・0・1・2・3+
液晶モニター（ファインダー撮影用のとき）	−3・2・1・0・1・2・3+ （上段に表示）	−3・2・1・0・1・2・3+ （下段に表示）

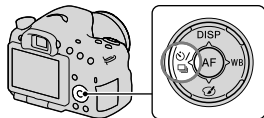
* 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれます。

- ブラケット撮影時には、ブラケット撮影枚数分の指標が測光インジケーターに表示されます。
- ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えていきます。

ホワイトバランスブラケット

選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録します。

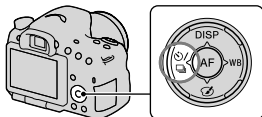
1 コントロールボタンの ⏲/⧉ → BRK WB（ホワイトバランスブラケット）→ 希望の設定を選ぶ。

- Loのときは$10MK^{-1}$*、Hiのときは$20MK^{-1}$の幅がずれる。

2 ピントを合わせて撮影する。

* MK^{-1}：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位（従来のミレッドと同じ値）。

リモコン

ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1（別売）のSHUTTERボタン、2SECボタン（2秒後にシャッターを切る）を使って撮影します。
リモコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。

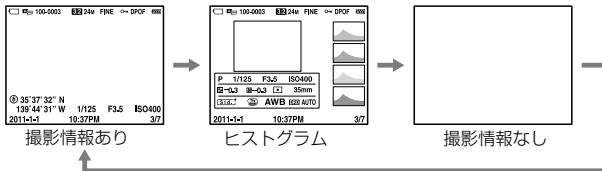
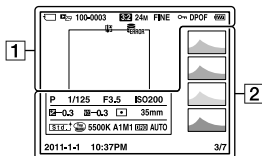
1 コントロールボタンの ⏲/ ⧉ → ▯（リモコン）を選ぶ。

2 ピントを合わせ、リモコン発光部を本機のリモコン受光部に向けて撮影する。

ご注意

- 動画撮影にリモコンRMT-DSLR1（別売）は使えません。

再生時の画面表示について

再生時の画面表示の切り換え

コントロールボタンのDISPを押すたびに、下記のように画面表示が切り換わります。

ヒストグラム表示時の画面表示一覧

1

表示	意味
	メモリーカード(21、212)
	ビューモード(150)
100-0003	フォルダー番号–ファイル番号(182)
3:2 16:9	静止画の画像横縦比(161)
3D	3D撮影(39、92)

表示	意味
24M 12M 6.0M 20M 10M 5.1M WIDE STD 16:9	静止画の画像サイズ(46)
RAW RAW+J FINE STD	静止画の画質(161)
	プロテクト(153)
DPOF	DPOF(プリント)指定(187)

表示	意味
	バッテリー残量警告（22）
	バッテリー容量（22）
FULL ERROR	管理ファイルフル警告（204）/管理ファイルエラー警告（204）
	温度上昇警告（11）

2

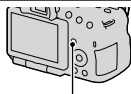
表示	意味
	ヒストグラム*（82）
AUTO AUTO+ P A S M	撮影モード（36）
1/125	シャッタースピード（97）
F3.5	絞り値（95）
ISO200	ISO感度（129）
–0.3	露出補正（43）
–0.3	調光補正（123）
	測光モード（123）
35mm	レンズ焦点距離
Std. Vivid Port. Land. Sunset B/W	クリエイティブスタイル（136）

表示	意味
Toy Norm Pop Pos Pos Rtro SftH key Part R Part G Part B Part Y HC BW Soft Mid Pntg Mid Rich BW Mini AUTO	ピクチャーエフェクト（134）
AWB –1 0 +1 +2 WB 5500K A1 M1	ホワイトバランス（オート、プリセット、色温度、カラーフィルター、カスタム）（138）
D-R OFF DRO HDR HDR !	Dレンジオプティマイザー（131）/オートHDR/オートHDR画像警告（132）
2011 - 1 - 1 10:37AM	撮影日時
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数

* 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します（白とび黒つぶれ警告）。

再生時の機能を使う

回転

1 回転したい画像を表示して、⤺ ボタンを押す。

⤺ ボタン

2 コントロールボタンの中央を押す。

画像が左へ回転する。さらに回転させたいときは、手順2を繰り返す。

- 回転した画像は、本機の電源を切ったあとも、回転された状態のまま保持される。

通常再生画面に戻るには

もう一度 ⤺ ボタンを押します。

ご注意

- 動画は回転できません。
- パソコンに取り込んだ画像は、CD-ROM（付属）内の「PMB」では、正しく回転された状態で表示されます。使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。

ビューモード

画像を表示する方法を選びます。

MENUボタン → ▶ 1 → [ビューモード] → 希望のモードを選ぶ。

フォルダービュー（静止画）	静止画のみをフォルダーごとに表示する。
フォルダービュー（MP4）	動画（MP4）のみをフォルダーごとに表示する。
AVCHDビュー	AVCHDビュー動画のみを表示する。

スライドショー

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [実行]を選ぶ。

撮影した画像を順番に表示する。全画像の表示が終わると自動的に終了する。

- スライドショー再生中に、コントロールボタンの◀/▶で、画像を戻す/送ることができる。
- 一時停止はできない。

途中で終了するには

コントロールボタンの中央を押します。

画像を切り換える間隔を変更するには

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [間隔設定]→ 希望の秒数を選ぶ。

繰り返し再生するには

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [リピート] → [入]を選ぶ。

3D画像を再生するには

HDMIケーブル（別売）で3D対応テレビと接続すると、本機の3Dスイングパノラマ撮影した3D画像を自動再生してお楽しみ頂けます。
3D撮影について詳しくは211ページをご覧ください。

テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

MENUボタン → ▶ 1 → [スライドショー] → [画像種別] → [3Dのみ(3D表示)]を選ぶ。

縦記録画像の再生

縦位置で撮影した画像を再生するときの向きを設定できます。

MENUボタン → ▶ 2 → [縦記録画像の再生] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- テレビやパソコンで再生する場合は、[横向き]にしていても縦向きになります。

パノラマ画像のスクロール再生

パノラマ画像を選び、コントロールボタンの中央を押します。

- もう一度中央を押すと一時停止する。一時停止中に▲/▼/◀/▶を押して手動でスクロール再生できる。

ご注意

- [3Dパノラマ：画像サイズ]を[16:9]にして撮影した3Dパノラマ画像はスクロール再生できません。

保護する（プロテクト）

画像を誤って消さないように保護（プロテクト）します。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [画像選択プロテクト]を選ぶ。

2 コントロールボタンの◀/▶で保護したい画像を選んで、中央を押す。

チェックボックスに ✔ マークが付く。

- 解除するときは、もう一度中央を押す。

3 他の画像も保護するときは、手順2を繰り返す。

- 一覧表示のときに、画面左側のバーを選んで、フォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[実行]を選び、コントロールボタンの中央を押す。

画像の保護をまとめて解除するには

表示しているビューモードごとに画像の保護をまとめて解除します。

MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [静止画 全て解除]または[動画（MP4）全て解除]、[AVCHDビュー動画全て解除]を選ぶ。

削除する

不要な画像を選んで削除したり、まとめて削除できます。
一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

希望のフォルダーを表示するには

コントロールボタンで左側のバーを選び、▲/▼で希望のフォルダーを選びます。

画像選択削除

1 MENUボタン → ▶ 1 → [削除] → [画像選択削除]を選ぶ。

2 コントロールボタンで削除したい画像を選び、中央を押す。

チェックボックスに ✓ マークが付く。

- 解除するときは、もう一度中央を押す。

合計枚数

3 他の画像も削除するときは、手順2を繰り返す。

- 一覧表示のときに、画面左側のバーを選んで、フォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[削除]を選び、コントロールボタンの中央を押す。

ビューモード内のすべての画像を削除する

表示しているビューモード内のすべての画像を削除します。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [削除] → [フォルダー内全て]または[AVCHDビュー動画全て]を選ぶ。

2 コントロールボタンの▲で[削除]を選び、中央を押す。

テレビでの再生について

HIDMIケーブル（別売）で本機とテレビを接続して再生する（50ページ）。

ご注意

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- 本機側はHDMIミニ端子、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのHDMIケーブルをお使いください。
- テレビに正しく画面が表示されない場合は、セットアップメニューの［HDMI解像度］を接続するテレビに合わせて、［1080p］または［1080i］にしてください。
- 一部の機器では正常に動作しない場合があります。
- 本機と接続機器の出力端子同士を接続しないでください。故障の原因になります。

“ブラビア プレミアムフォト”について

本機は“ブラビア プレミアムフォト”に対応しています。
“ブラビア プレミアムフォト”に対応したソニー製テレビにHDMIケーブルで接続出力すると、写真を今までになかった感動のFull HD高画質で快適にお楽しみいただけます。
“ブラビア プレミアムフォト”対応のUSB端子つきソニー製テレビでは、付属のUSBケーブルでも接続できます。
“ブラビア プレミアムフォト”とは、写真らしい高精細で微妙な質感や色あいの表現を可能にする機能です。

3D鑑賞

HDMIケーブル（別売）で3D対応テレビと接続すると、本機の3Dスイングパノラマ撮影した3D画像をお楽しみ頂けます。
3D撮影について詳しくは211ページをご覧ください。
テレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

MENUボタン → ▶ 1 → ［3D鑑賞］を選ぶ。

ブラビアリンク

本機とブラビアリンクに対応のテレビをHDMIケーブルでつなぐと、テレビのリモコンで操作できます。

1 ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する（50ページ）。

テレビの入力が自動で切り換わり、本機の画像が表示される。

2 リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。

3 リモコンのボタンで操作する。

リンクメニューの項目

スライドショー	自動再生する（151ページ）。
一枚表示	1枚表示画面に戻る。
一覧表示	一覧表示画面にする。
3D鑑賞	3D対応テレビと接続して3D画像を再生する。
ビューモード	ビューモードを切り換える。
削除	画像を削除する。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク（リンクメニュー対応）」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、セットアップメニューの[HDMI機器制御]を[切]にしてください。

GPSを使う

本機に内蔵されているGPS機能が位置情報を取得した状態で撮影を行うと、画像に位置情報が記録されます。
付属のソフトウェア「PMB」を使うと、位置を記録した画像をパソコンに取り込んで地図と一緒に楽しむことができます。
詳しくは「PMBヘルプ」をご覧ください。

MENUボタン → 🔧1 → [GPS設定] → [GPS機能] → [入]を選ぶ。

衛星からの電波の受信状況によって、画面に表示されるアイコンが変わります。

画面表示	GPS受信状況
非表示	[GPS機能]が[切]になっている。
(アイコン)	位置情報が記録できない状態。空の開けた場所に移動してください。
(アイコン)	位置情報を算出中。位置情報が記録可能になるまでお待ちください
(アイコン)	現在の正しい位置情報が記録可能な状態。
ERROR	GPS機能の異常が起きている。本機の電源を入れ直してください。

GPSの電波を受信するには

- 屋内や高い建物の近くではうまく測位できません。屋外の空の開けた場所に移動して、本機の電源を入れ直してください。
- 位置情報を取得できるまで数十秒から数分かかることがあります。GPSアシストデータを利用することで、測位時間を短くすることができます。

ご注意

- 電源を入れたときは、位置情報を取得できるまで数十秒から数分かかることがあります。取得できない状態で撮影すると、位置情報は記録されません。正しい位置情報を記録するためには、GPSの電波を受信できる状態に

してから撮影してください。
- 飛行機の離着陸時には、機内の案内に従って本機の電源をお切りください。
- GPS機能は、ご利用になる国や地域の規制に従ってお使いください。
- GPSについての詳しいご注意は210ページをご覧ください。

GPSアシストデータ

GPSアシストデータを本機に取り込むことによって、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができます。付属のソフトウェア「PMB」をインストール済みのパソコンにUSBケーブルを使って接続すると、自動的に最新のGPSアシストデータに更新することができます。

GPSアシストデータの有効期限を確認するには

MENUボタン → 🔧1 → [GPS設定] → [GPSアシストデータ確認] を選ぶ。

ご注意
- 更新時は、パソコンがインターネットに接続されている必要があります。
- アシストデータの有効期限が切れている場合、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができません。定期的に更新することをおすすめします。アシストデータの有効期限は約30日以内です。
- [日時設定]をしていない、または設定時刻が大きくずれている場合、位置情報を取得するまでの時間を短くすることができません。
- 諸般の事情によりGPSアシストデータの提供サービスを終了させていただく場合があります。

パソコンにメモリーカードを挿入して、GPSアシストデータを更新するには

「PMBランチャー」から[GPSサポートツール]を起動し、メモリカードのドライブを選択してGPSアシストデータを更新してください。
そのあとで更新したメモリーカードを本機に挿入してください。

GPS自動時刻補正

本機の起動中にGPSを利用して時刻情報を取得し、正確な時刻を維持できます。電源を切ったタイミングで時刻を補正します。

MENUボタン → 🔧1 → [GPS設定] → [GPS自動時刻補正] → [入]を選ぶ。

ご注意

- [GPS機能]が[切]の場合は無効です。
- あらかじめ、[日時設定]を設定してください。
- 数秒の誤差が生じることがあります。
- 地域によっては、正確に機能しない場合があります。

画像の横縦比と画質を設定する

横縦比

MENUボタン → 📷1 → [横縦比] → 希望の比率を選ぶ。

3：2	通常の横縦比率。
16：9	ハイビジョンテレビ比率。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」時は設定できません。

画質

MENUボタン → 📷1 → [画質] → 希望の設定を選ぶ。

RAW（RAW）	ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録します） デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。 • 画像サイズは常に最大サイズで固定され、画面には画像サイズは表示されない。
RAW+J （RAW+JPEG）	ファイル形式：RAW（圧縮Raw形式で記録します）＋JPEG 上記RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に便利です。 • JPEG画像の画質は[ファイン]に、画像サイズは[L]に固定される。

FINE（ファイン）	ファイル形式：JPEG 画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。 「STD」は「FINE」に比べて圧縮率が大きくなるためデータ量が少なくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。
STD（スタンダード）	

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」時は設定できません。

RAWについて

本機で撮影したRAW画像を開くにはCD-ROM（付属）の「Image Data Converter」が必要です。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。

- RAW形式の画像は、DPOF（プリント）指定はできません。
- RAW形式の画像には、[オートHDR]、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。

本体の設定を変更する

長秒時ノイズリダクション

シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影する（長時間露光）と、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するためです。処理中はメッセージが表示され、撮影できません。画質を優先するには[入]を、撮影タイミングを優先するには[切]を選びます。

MENUボタン → 📷2 → [長秒時ノイズリダクション] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、「連続撮影優先AE」、連続撮影および連続ブラケット撮影、シーンセレクションの[スポーツ]、[手持ち夜景]、ISO感度が[マルチショットノイズリダクション]時は、[入]にしていてもノイズリダクションは行われません。
- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、シーンセレクション時はノイズ軽減処理[切]の設定はできません。

高感度ノイズリダクション

高感度に設定して撮影すると、高感度時に目立つノイズを軽減する処理を行います。処理中はメッセージが表示される場合があり、その間は撮影できません。
通常は[標準]に設定されています。よりノイズを低減させたいときには[強]を、撮影タイミングを優先するときには[弱]を選んでください。

MENUボタン → 📷2 → [高感度ノイズリダクション] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 撮影モード「AUTO」、「AUTOアドバンス」、「スイングパノラマ」、「3Dパノラマ」、シーンセレクション時は設定できません。
- RAW画像にはノイズリダクションは行われません。

色空間

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、あるいは表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

MENUボタン → 2 → ［色空間］ → 希望の設定を選ぶ。

sRGB	デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影ではsRGBを使う。
AdobeRGB	より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。 • 撮影した画像のファイル名は、"_DSC"で始まる。

ご注意

- Adobe RGBは、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフト、プリンター用です。非対応のソフト、プリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- Adobe RGBで撮影した画像は、本機およびAdobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度となります。

レンズなし時のレリーズ

本機を天体望遠鏡に取り付ける場合などは、レンズを取り付けていない状態でもシャッターを切れるように設定します。

MENUボタン → 1 → ［レンズなし時のレリーズ］ → ［許可］を選ぶ。

ご注意

- 天体望遠鏡など、レンズ信号接点を持たないレンズをお使いの場合は、正確な測光が行えません。撮影結果を見て、手動で露出を合わせてください。

グリッドライン

構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示を設定します。動画の撮影可能範囲も表示されます。

MENUボタン → ✿ 2 → [グリッドライン] → 希望の設定を選ぶ。

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。その表示時間を変更できます。

MENUボタン → ✿ 2 → [オートレビュー] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [縦記録画像の再生]が[縦向き]になっていても、オートレビュー時は縦方向で表示されません(152ページ)。

AELボタンの機能

AELボタンを押して固定した測光値を、AELボタンを押している間だけ保持するか([押す間AEL])、もう一度AELボタンを押すまで保持するか([再押しAEL])を設定できます。また、[押す間スポットAEL]/[再押しスポットAEL]を選ぶと、スポット測光での露出で固定されます(123ページ)。

MENUボタン → ✿ 3 → [AELボタンの機能] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 測光値がロックされている間は、液晶モニター/ファインダー内に ✱ が点灯します。解除し忘れのないようにしてください。

- ［再押し］に設定したときは、もう一度AELボタンを押して、忘れずにロックを解除してください。

AELボタンに他の機能を割り当てるには

AELボタンには、AEL機能の他に以下の機能を割り当てることができます。
露出補正/ドライブモード/フラッシュモード/オートフォーカスモード/フォーカスエリア/顔検出/スマイルシャッター /ISO感度/測光モード/調光補正/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/画像サイズ/画質/被写体追尾/AFロック/絞りプレビュー /撮影結果プレビュー /スマートテレコンバーター /ピント拡大

ISOボタンの機能

ISOボタンには、ISO以外の機能を割り当てることもできます。
割り当てることのできる機能は［AELボタンの機能］と同じです（165ページ）。

MENUボタン → ✿3 → ［ISOボタンの機能］ → 希望の設定を選ぶ。

プレビューボタンの機能

撮影前に背景のぼかし具合を確認するプレビューボタンの機能を設定します。

MENUボタン → ✿3 → ［プレビューボタンの機能］ → 希望の設定を選ぶ。

撮影結果プレビュー	設定した絞り値まで絞り込まれ、ぼけ具合を確認できる。シャッタースピードの値も反映される。

絞りプレビュー	設定した絞り値まで絞り込まれ、ぼけ具合を確認できる。

電子先幕シャッター

電子先幕シャッターを使うと、短いレリーズタイムラグで撮影できます。

MENUボタン → ✿4 → [電子先幕シャッター] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 大口径レンズを装着して、高速のシャッタースピードで撮影する場合、被写体や撮影環境によってボケ像が欠けることがあります。その場合は「切」に設定してお使いください。
- ミノルタ/コニカミノルタ製レンズを使用するときは[切]に設定してお使いください。[入]に設定すると、適正露出にならなかったり、画像の明るさにムラが出たりします。

モニター明るさ

本機は明るさセンサー（15ページ）により、周囲の明るさに合わせて、液晶モニターの明るさを自動調整します。
これを手動で変更することもできます。

MENUボタン → 🔧1 → [モニター明るさ] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [オート]設定時は、明るさセンサーを手などでおおわないようにしてお使いください。
- [オート]設定時にACアダプター AC-PW10AM（別売）を使うと、モニターの明るさは常に一番明るい設定になります。

ファインダー明るさ

本機は、被写体の明るさに合わせてファインダーの明るさを自動調整します。
これを手動で変えることもできます。

MENUボタン → 🔧1 → [ファインダー明るさ] → [マニュアル] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [オート]設定時にACアダプター AC-PW10AM (別売)を使うと、ファインダーの明るさは常に一番明るい設定になります。

パワーセーブ

自動的に省電力モード(パワーセーブ)になるまでの時間を設定できます。シャッターボタン半押しなどの操作をすれば、撮影が再開できます。

MENUボタン → 🔧1 → [パワーセーブ] → 希望の時間を選ぶ。

ご注意

- テレビ接続時またはドライブモードが[リモコン]のときは省電力モードになりません。

FINDER/LCD切換設定

液晶モニター表示とファインダー表示の自動切り換えを無効にして、FINDER/LCD切り換えボタンのみでの切り換えに設定できます。

MENUボタン → ✿1 → [FINDER/LCD切換設定] → [マニュアル]を選ぶ。

レンズ補正を設定する

レンズの周辺光量低下、倍率色収差、歪曲収差を自動で補正します（自動補正対応レンズのみ）。自動補正対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

レンズ補正（周辺光量）

使用するレンズによって画面の周辺部が暗くなる場合に、自動で光量を補正します。
お買い上げ時の設定は［オート］になっています。

MENUボタン → ✿4 → ［レンズ補正（周辺光量）］ → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正（倍率色収差）

使用するレンズによって画面周辺部で色ずれが起こる場合に、自動で色ずれを補正します。
お買い上げ時の設定は［オート］になっています。

MENUボタン → ✿4 → ［レンズ補正（倍率色収差）］ → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正（歪曲収差）

使用するレンズによって画面の歪みが起こる場合に、自動で歪みを補正します。
お買い上げ時の設定は［切］になっています。

MENUボタン → ✿4 → ［レンズ補正（歪曲収差）］ → 希望の設定を選ぶ。

メモリーカードへの記録方法を設定する

フォーマット

フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが削除され、元に戻せません。

MENUボタン → ▭ 1 → [フォーマット] → [実行]を選ぶ。

ご注意

- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- バッテリー残量が1%以下のときは、フォーマットできません。

ファイル番号

MENUボタン → ▭ 1 → [ファイル番号] → 希望の設定を選ぶ。

連番	ファイル番号をリセットせず、9999までファイル番号を続ける。
リセット	以下の場合にファイル番号をリセットし、0001から番号をつける。同一フォルダー内にファイルが存在している場合は、その続きから始まる。 – 保存フォルダーの形式が変更になった場合 – フォルダー内の全画像が削除された場合 – メモリーカードを交換した場合 – メモリーカードをフォーマットした場合

フォルダー形式

撮影した静止画は、メモリーカードの中のDCIMフォルダーの下に自動生成されたフォルダーに保存されます。

MENUボタン → ▭1 → [フォルダー形式] → 希望の設定を選ぶ。

標準形式	フォルダー名が、フォルダー番号＋MSDCFになる。 例：100MSDCF
日付形式	フォルダー名が、フォルダー番号＋年月日(西暦下1桁月日4桁)になる。 例:10010405（100フォルダー、2011年4月5日）

ご注意

- MP4動画のフォルダー形式は「フォルダー番号＋ANV01」で固定されます。

記録フォルダー選択

標準形式フォルダーを選択中でフォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー（記録フォルダー）を選べます。

MENUボタン → ▭1 → [記録フォルダー選択] → 希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- 日付形式フォルダー設定中は、記録フォルダーの選択はできません。

フォルダー新規作成

メモリーカードの中に、新しいフォルダーを作成します。
既存番号＋1のフォルダーが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダーに記録されます。静止画用のフォルダーとMP4動画用のフォルダーが同時に作成されます。

MENUボタン → ▭1 → [フォルダー新規作成]を選ぶ。

ご注意

- 他機で使用していたメモリーカードを本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダーを作成する場合があります。
- 1つのフォルダー番号に記録できる画像は最大4000枚です。容量を超えると、自動的に新しいフォルダーが作成されます。

管理ファイル修復

パソコンでファイルを操作したなどの原因で、画像を管理しているファイルに何らかの異常が発生すると、メモリーカード内の画像が再生できなくなります。
そのような場合に管理ファイルの修復を行います。

MENUボタン → ▭1 → [管理ファイル修復] → [実行]を選ぶ。

ご注意

- 充分に充電したバッテリーをお使いください。残量の少ないバッテリーを使用して行うと、データを破損するおそれがあります。

アップロード設定(Eye-Fi)

市販のEye-Fiカードを使うときに、アップロード機能を使うかどうか設定します。
Eye-Fiカードがカメラに入っているときのみ自動アップロード機能の設定メニューが表示されます。

MENUボタン → 2 → [アップロード設定] → 希望の設定を選ぶ。

通信状態の画面表示

アイコン	状態
	待機中で、送信画像が無い
	アップロード待機中
	接続中
	アップロード中
	エラー発生

ご注意

- Eye-Fiカードはご使用の前に、無線LANアクセスポイントや転送先を設定してください。詳しくはEye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- Eye-Fiカードはアメリカ、カナダ、日本、EUの一部の国で販売しています(2011年3月現在)。
- Eye-Fiカードに関する問い合わせは、その製造者・販売者に直接ご確認ください。
- Eye-Fiカードはご購入された国のみで使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fiカードはワイヤレス LAN機能を持っています。飛行機の中など、使用を禁止されている場所では、Eye-Fiカードを本機に入れないでください。入っている場合は[アップロード設定]を[切]にしてください。アップロード機能が[切]になっていると画面上に OFF が表示されます。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使うときは、カードをフォーマットする前に、カードに書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコンにコピーしてください。

- Eye-Fiカードは、ファームウェアを最新版にバージョンアップしてからお使いください。バージョンアップについて詳しくは、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 画像アップロード中はパワーセーブ機能は働きません。
- （エラー発生）が表示された場合は、メモリーカードを抜き差しするか、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、Eye-Fiカードが壊れている可能性があります。
- 無線LANの通信は他の通信機器の影響を受けることがあります。通信状態が良くないときは、接続先のアクセスポイントに近づいてください。
- アップロードできるファイルについては、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- ［GPS機能］が［入］の状態で撮影した画像をアップロードすると、意図せずに撮影場所が第3者に知られる場合があります。
  その場合は［GPS機能］を［切］にして撮影してください（158ページ）。
- 本機はエンドレスモードに対応していません。Eye-Fi を使用する前に、エンドレスモードは必ずオフに設定してください。

設定を初期値に戻す

本機の主な設定が初期値に戻ります。

MENUボタン → 🔧3 → [設定リセット] → 希望の設定 → [実行]を選ぶ。

リセットされるのは下記の設定項目です。

撮影機能(設定値リセット/撮影モードリセット)

項目	リセット後の設定値
露出補正(43)	±0.0
ドライブモード(44、143)	1枚撮影
フラッシュモード(41、126)	強制発光(内蔵フラッシュの開閉状態により異なる)
オートフォーカスモード(112)	AF-A
フォーカスエリア(113)	ワイド
被写体追尾(114)	入
顔検出(118)	入(登録顔優先)
スマイルシャッター (120)	切
ISO (129)	AUTO
測光モード(123)	多分割測光
調光補正(123)	±0.0
ホワイトバランス(138)	オート(自動設定)
色温度/カラーフィルター (140)	5500K、カラーフィルター 0
カスタムホワイトバランス値(141)	5500K
DRO/オートHDR (131)	Dレンジオプティマイザー:オート
クリエイティブスタイル(136)	スタンダード
ピクチャーエフェクト(134)	切
シーンセレクション(38、89)	ポートレート
動画(105)	P

静止画撮影メニュー（設定値リセット/撮影モードリセット）

項目	リセット後の設定値
画像サイズ（46）	L：24M
横縦比（161）	3：2
画質（161）	ファイン
パノラマ：画像サイズ（46）	標準
パノラマ：撮影方向（93）	右
3Dパノラマ：画像サイズ（46）	標準
3Dパノラマ：撮影方向（93）	右
長秒時ノイズリダクション（163）	入
高感度ノイズリダクション（163）	標準
調光モード（124）	ADI調光
AF補助光（128）	オート
色空間（164）	sRGB
手ブレ補正（86）	入

動画撮影メニュー（設定値リセット/撮影モードリセット）

項目	リセット後の設定値
記録方式（106）	AVCHD 60i/60p
記録設定（107）	60i 17M（FH）
音声記録（108）	入
風音低減（108）	切
手ブレ補正（86）	入

カスタムメニュー（設定値リセット/カスタム設定リセット）

項目	リセット後の設定値
アイスタートAF（80）	切
FINDER/LCD切換設定（168）	オート
赤目軽減発光（57）	切
レンズなし時のレリーズ（164）	禁止

項目	リセット後の設定値
オートアドバンス連続撮影（88）	オート
オートアドバンス画像抽出（88）	オート
グリッドライン（165）	切
オートレビュー（165）	切
DISPボタン（背面モニター）（81）	全情報表示/グラフィック表示/情報表示なし/水準器
DISPボタン（ファインダー）（81）	情報表示なし/グラフィック表示/水準器
ピーキングレベル（116）	切
ピーキング色（116）	ホワイト
ライブビュー表示（83）	設定効果反映On
AELボタンの機能（165）	押す間AEL
ISOボタンの機能（166）	ISO感度
プレビューボタンの機能（166）	撮影結果プレビュー
フォーカスホールドボタンの機能（59）	フォーカスホールド
スマートテレコンバーターボタン（117、142）	スマートテレコン
レンズ補正（周辺光量）（169）	オート
レンズ補正（倍率色収差）（169）	オート
レンズ補正（歪曲収差）（169）	切
電子先幕シャッター（167）	入

再生メニュー（設定値リセット）

項目	リセット後の設定値
ビューモード（150）	フォルダービュー（静止画）
スライドショー －間隔設定（151）	3秒
スライドショー －リピート（151）	切
プリント指定－日付プリント（188）	切
音量設定（61）	2

項目	リセット後の設定値
縦記録画像の再生(152)	縦向き

メモリーカードツールメニュー(設定値リセット)

項目	リセット後の設定値
ファイル番号(170)	連番
フォルダー形式(171)	標準形式

セットアップメニュー(設定値リセット)

項目	リセット後の設定値
メニュー呼び出し先(62)	先頭
モニター明るさ(167)	オート
ファインダー明るさ(168)	オート
GPS設定 － GPS機能(158)	切
GPS設定 － GPS自動時刻補正(160)	–
パワーセーブ(168)	1分
HDMI解像度(156)	オート
HDMI機器制御(157)	入
アップロード設定(173)	入
USB接続(180)	オート
電子音(63)	入
モードダイヤルガイド(63)	入
デモモード(63)	切

その他(設定値リセット)

項目	リセット後の設定値
撮影情報画面(背面モニター)(45)	全情報表示
撮影情報画面(ファインダー)(45)	水準器
再生画面(148)	1枚再生(撮影情報あり)

本機のバージョンを確認する

お手持ちのカメラのバージョンを表示します。本機のファームウェアのアップデートがリリースされたときなどに確認します。

MENUボタン → 3 → [バージョン表示]を選ぶ。

ご注意

- バッテリー残量が （残量が3個）以上でないと、アップデートは行えません。充分に充電したバッテリーを使うか、ACアダプター AC-PW10AM（別売）の使用をおすすめします。

本機とパソコンを接続する

USB接続の設定をする

本機とパソコン、またはUSB機器をUSBケーブルで接続するときのモードを設定します。

MENUボタン → 🔧2 → [USB接続] → 希望の設定を選ぶ。

オート	接続するパソコンやその他USB機器に応じて、MTPとマスストレージのどちらで接続するのか自動的に選択される。Windows 7の場合にはMTPで接続され、Windows 7特有の機能が使用できる。
MTP	本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7の場合にはMTPで接続され、Windows 7特有の機能が使用できる。それ以外(Vista/XP、Mac OS X)の場合には自動再生ウィザードが起動し、本機に設定されている記録フォルダー内の静止画をパソコンに取り込む。
マスストレージ	本機とパソコン、その他USB機器をマスストレージ接続する。

ご注意

- [オート]に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。
- Windows 7接続時にデバイスステージ*が表示されない場合、[オート]に設定してください。

* 接続されたカメラなどを管理できるメニュー画面(Windows 7の機能)です。

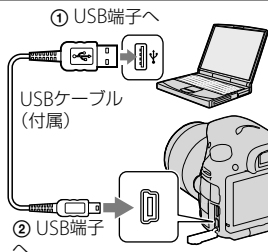
パソコンと接続する

1 充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター AC-PW10AM（別売）を使い、本機とコンセントを接続する。

2 本機とパソコンの電源を入れる。

3 セットアップメニュー 🔧 2の[USB接続]が[マスストレージ]になっていることを確認する。

4 本機とパソコンを接続する。

- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

画像を取り込んで見る（Windows）

「PMB」を使うと、簡単に画像を取り込めます。
「PMB」の機能について詳しくは、「PMBヘルプ」をご覧ください。

「PMB」を使わずに画像をパソコンに取り込むには

本機とパソコンを接続して自動再生ウィザードが起動したら、[フォルダを開いてファイルを表示] → [OK] → [DCIM]または[MP_ROOT]をクリックして、取り込みたい画像をパソコン内にコピーしてください。

ファイル名について

フォルダー	ファイルの種類	ファイル名
DCIMフォルダー	JPEGファイル	DSC0□□□□.JPG
	JPEGファイル（Adobe RGB）	_DSC□□□□.JPG
	RAWファイル	DSC0□□□□.ARW
	RAWファイル（Adobe RGB）	_DSC□□□□.ARW
MP_ROOTフォルダー	MP4ファイル（1440×1080 12M）	MAH0□□□□.MP4
	MP4ファイル（VGA 3M）	MAQ0□□□□.MP4

- □□□□（ファイル番号）は0001 ～ 9999の半角数字
- [画質]を「RAW+JPEG」で撮影した場合、RAWファイルとJPEGファイル名の数字部分は同じです。

ご注意

- AVCHDビュー動画を取り込むなどの操作は「PMB」を使用してください。
- 動画にGPS位置情報をつけたままパソコンに取り込む場合は、「PMB」を使用してください。
- 本機とパソコンを接続した状態で、パソコンから本機のAVCHDビュー動画ファイルやフォルダーを操作した場合、画像ファイルが壊れたり、再生できなくなることがあります。パソコンから本機のメモリーカード上のAVCHDビュー動画を削除したり、コピーをしたりしないでください。このような操作をした結果に対し、当社は責任を負いかねます。

画像を取り込んで見る（Macintosh）

1 本機とパソコンを接続したら[デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン]→[取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリックする。

2 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。

ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

3 [ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックする。

画像が表示される。

ご注意

- AVCHDビュー動画を取り込むなどの操作は、Macintoshにバンドルされているソフトウェア「iMovie」を使用してください。

パソコンとの接続を切断する

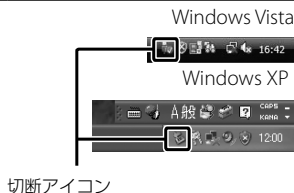
以下の操作を行いたいときは、1 ～ 3の手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

1 タスクトレイの切断アイコンをダブルクリックする。

Windows Vista

Windows XP

切断アイコン

2 (USB大容量記憶装置) → [停止]をクリックする。

3 取りはずすドライブを確認して、[OK]をクリックする。

ご注意

- Macintosh使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。

動画のディスクを作成する

本機に記録したAVCHDビュー動画からディスクを作成することができます。

- [記録設定]を[60p 28M（PS）]または[60i 24M（FX）]、[24p 24M（FX）]にして撮影した動画は、「PMB」でのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください（185ページ）。

AVCHDディスクを作る

付属のソフトウェア「PMB」を使って、パソコンに取り込んだAVCHDビュー動画をハイビジョン画質（HD）のAVCHDディスクに作成できます。

1 「PMB」上でディスクに書き込むAVCHDビュー動画を選ぶ。

2 （ディスク作成）をクリックして[AVCHD（HD）作成]を選ぶ。

AVCHD（HD）作成画面が表示される。

- 詳しい操作方法については「PMBヘルプ」をご覧ください。

ご注意

- あらかじめ「PMB」をインストールしてください。
- 静止画、MP4動画はAVCHDディスクに記録できません。
- ディスク作成には時間がかかることがあります。

AVCHDディスクをパソコンで再生するには

「PMB」と同時にインストールされる「Player for AVCHD」を使って再生できます。
起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [PMB] → [PMBランチャー] → [見る] → [Player for AVCHD]の順にクリックします。操作方法は「Player for AVCHD」のヘルプをご覧ください。

ご注意

- パソコンの環境によっては、動画がなめらかに再生できないことがあります。

ブルーレイディスクを作るには

パソコンに取り込んだAVCHDビュー動画から、ブルーレイディスクを作成できます。
お使いのパソコンがブルーレイディスク作成に対応している必要があります。
ディスクは、BD-R（書き換え不可）、BD-RE（書き換え可）が使えます。追加記録はできません。
ブルーレイディスクを作成するには「PMB」のインストール画面で「BD アドオンソフトウェア」をインストールしてください。
インストールには、お使いのパソコンをインターネットに接続する必要があります。
詳しい操作方法については「PMBヘルプ」をご覧ください。

ご注意

- [60p 28M（PS）]で撮影した動画から「PMB」を使って作成したブルーレイディスクは、AVCHD規格 Ver.2.0に対応した機器でのみ再生できます。

標準(STD)画質のディスクを作る

付属のソフトウェア「PMB」を使って、パソコンに取り込んだAVCHDビュー動画を選び、標準(STD)画質のDVDディスクを作成できます。

1 「PMB」上で、ディスクに書き込むAVCHDビュー動画を選ぶ。

2 (ディスク作成)をクリックして[DVD-Video(STD)作成]を選ぶ。

AVCHD(STD)作成画面が表示される。

- 詳しい操作方法については「PMBヘルプ」をご覧ください。

ご注意

- あらかじめ「PMB」をインストールしてください。
- MP4動画はディスクに記録できません。
- AVCHDビュー動画を標準画質(STD)に変換するため、ディスク作成に時間がかかります。
- DVD-Videoディスクを初めて作成するときは、インターネット接続環境が必要です。

「PMB」で使えるディスクの種類について

「PMB」では以下の12 cmのディスクを使えます。ブルーレイディスクについては、185ページをご覧ください。

ディスクの種類	特徴
DVD-R / DVD＋R / DVD＋R DL	書き換えできない。
DVD-RW / DVD＋RW	書き換えて再利用できる。

- 「プレイステーション 3」のシステムソフトウェアは常に最新版にアップデートしてお使いください。アップデートの詳細は、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントのウェブサイトをご覧ください。
  http://www.jp.playstation.com/ps3/update/

プリント指定する

撮影した静止画を、ご自分のプリンターでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像をプリントするかを指定しておくことができます。
指定方法は、下記の手順をご覧ください。
DPOF指定は、印刷後も残ったままとなります。印刷が終了したあとは、解除することをおすすめします。

1 MENUボタン → ▶ 1 → [プリント指定] → [DPOF指定] → [画像選択]を選ぶ。

2 コントロールボタンの◀/▶で画像を選ぶ。

3 コントロールボタンの中央を押して ✓ マークをつける。

- プリント指定を解除するときは、もう一度画像を選んで中央を押す。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[実行]を選び、コントロールボタンの中央を押す。

ご注意

- RAW画像にはDPOF指定はできません。
- 枚数指定はできません。

日付プリント

プリントする際に、プリンター側で日付を入れることができます。日付の入る場所(画面内/画面外、サイズなど)は、お使いのプリンターによって異なります。

MENUボタン → ▶ 1 → [プリント指定] → [日付プリント] → [入]を選ぶ。

ご注意

• プリンターによっては、この機能に対応していないものもあります。

本体のお手入れ

カメラ本体の清掃

- レンズ信号接点、ミラーなどマウントの内側にある本機の内部の部品には触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりは画像やカメラ性能に影響を与えることがあるため、市販のブロアー *で吹き飛ばしてください。イメージセンサーの清掃は次のページをご覧ください。
  * スプレー式のブロアーは故障の原因となりますので使用しないでください。
- その他、本体表面の清掃は、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。
  – シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
  – 上記が手についたまま本機を扱うこと
  – ゴムやビニール製品との長時間の接触

レンズの清掃

- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面を清掃するときは、市販のブロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。

イメージセンサーをクリーニングする

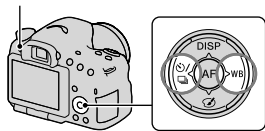
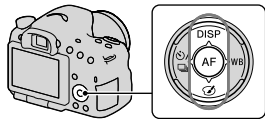
本機内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（フィルムに該当する部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、以下の手順でイメージセンサーの清掃を行ってください。

ご注意

- バッテリー残量が50%以下のときは、クリーニングモードは行えません。
- クリーニング中にバッテリー残量が少なくなった場合は、本機のブザーが鳴ってお知らせします。すぐにクリーニングを中断して、電源を切ってください。ACアダプター AC-PW10AM（別売）の使用をおすすめします。
- 清掃はすみやかに行ってください。
- スプレー式のブロアーは、水滴が本機内部に飛び散るので使用しないでください。

カメラで自動クリーニングを行う

1 **バッテリー容量が充分にあることを確認する（22ページ）。**

2 **MENUボタンを押し、コントロールボタンの◀/▶で🔧2を選ぶ。**

3 **▲/▼で[クリーニングモード]を選び、コントロールボタンの中央を押す。**

4 ▲で[実行]を選び、コントロールボタンの中央を押す。

イメージセンサーが短時間振動して、ゴミをふるい落とす。

5 本機の電源を切る。

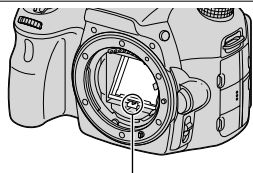
ブロアーを使って清掃を行う

カメラで自動クリーニングを行ったあと、更に清掃が必要な場合には、以下の手順でブロアーを使った清掃を行ってください。

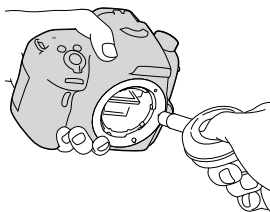
1「カメラで自動クリーニングを行うには」の1 ～ 4の手順でクリーニングモードを実行する。

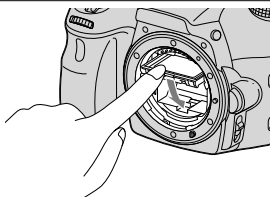
2 レンズをはずす(25ページ)。

3 ミラーロックレバーの▼マーク部を指先で押し、ミラーを跳ね上げる。

- ミラー表面には触らないように注意する。

ミラーロックレバー

4 ブロアーでイメージセンサー表面とその周辺のほこりを吹き飛ばす。

- ブロアーの先端をイメージセンサーに当てないようにして、マウントより中に入れない。
- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにして手早く行う。
- ミラー裏面のほこりもブロアーで清掃する。

5 清掃終了後、カチッと音がするまで指でミラーを押し下げる。

- ミラーの枠の部分を指で押し下げる。ミラー表面には触れないように注意する。
- 確実にロックされるまで、ミラーを押し下げる。

6 レンズを取り付けて、本機の電源を切る。

- レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認する。

ご注意

- 清掃終了後、レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認してください。レンズを傷つけたり、故障につながる場合があります。また、ミラーが下がり切っていないと、撮影の際、オートフォーカスでピント合わせができなくなります。
- ミラーを上げた状態のまま撮影することはできません。
- 上記の手順でクリーニングを行っても取れない場合は、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

困ったときは

困ったときは、次の項目をチェックし、本機を点検してください。それでも調子が悪いときは『α』専用サポートサイトまたはソニーの相談窓口に電話でお問い合わせください。

❶以下の項目をチェックする。

❷バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

❸設定リセットをする（175ページ）。

❹『α』専用サポートサイトで確認する。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

❺ソニーの相談窓口に電話で問い合わせる。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でロックレバーを押しながら入れてください（21ページ）。
- バッテリーはNP-FM500Hのみ使用できます。NP-FM500Hかどうか確認してください

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。電源が入らない。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です（205ページ）。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください（20ページ）。
- バッテリーの寿命です（214ページ）。新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください（21ページ）。

電源が切れる。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定（パワーセーブ）になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます（168ページ）。

バッテリー充電中、CHARGEランプが点滅する。

- バッテリーはNP-FM500Hのみ使用できます。NP-FM500Hかどうか確認してください。
- 長時間使用していないバッテリーを充電すると、CHARGEランプが点滅することがあります。
- 点滅パターンは、速い点滅（約0.15秒）と遅い点滅（約1.5秒）の2種類があります。速い点滅のときは、バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを確実に取り付けてください。
  再び速い点滅をしたときは、バッテリーの異常が考えられます。
  遅い点滅のときは、充電に適した温度外で充電しているため、充電を一時停止した待機状態になっています。充電に適した温度範囲に戻れば充電を再開し、CHARGEランプは点灯になります。
  バッテリーの充電は周囲温度が10℃～ 30℃の環境で行うことをおすすめします。

撮影する

ファインダーモード時、電源を入れても液晶モニターがつかない。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定（パワーセーブ）になり、ほぼ電源オフに近い状態になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます（168ページ）。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度を正しく調整してください（29ページ）。

ファインダーに画像が映らない。

- ［FINDER/LCD切換設定］が［マニュアル］になっています。FINDER/LCD切り換えボタンを押してください（168ページ）。
- ファインダーに接眼してください。

シャッターが切れない。

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。
- メモリーカードの空き容量を確認してください。
- 内蔵フラッシュ充電中は撮影できません(41、126ページ)。
- オートフォーカスのときにはピントが合わないとシャッターは切れません。
- レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください(24ページ)。
- 本機を天体望遠鏡などに取り付けた場合は、[レンズなし時のレリーズ]を[許可]にして撮影してください(164ページ)。
- オートフォーカスの苦手な被写体(110ページ)を撮ろうとしています。フォーカスロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影を行ってください(111、115ページ)。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています(163ページ)。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています(161ページ)。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。
- オートHDR処理中です(132ページ)。

同じ画像が数枚撮影される。

- ドライブモードが連続撮影、またはブラケット撮影になっています。[1枚撮影]にしてください(44、143ページ)。
- 撮影モードが「連続撮影優先AE」になっています(40、94ページ)。
- 撮影モードが「AUTOアドバンス」になっていて、[オートアドバンス画像抽出]が[切]になっています(88ページ)。

ピント(フォーカス)が合わない。

- 被写体が近すぎます。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっている。フォーカスモードスイッチを「AF」(オートフォーカス)にしてください(109ページ)。
- レンズにフォーカスモードスイッチが付いている場合は、「AF」にしてください。
- 光量が不足している。

アイスタートAFが働かない。

- [アイスタートAF]を[入]にしてください(57ページ)。
- シャッターボタンを半押ししてください。

フラッシュ撮影ができない。

- フラッシュが自動発光になっています。必ず発光させたいときは、強制発光にしてください(41、126ページ)。

フラッシュの充電時間が長い。

- 短時間に連続してフラッシュを発光させています。連続してフラッシュを発光すると、本機が熱くなるのを防ぐため、通常より充電時間が長くなることがあります。

フラッシュ撮影した画像が全体的に暗い。

- フラッシュの調光距離(フラッシュ光の届く距離)より撮影距離が遠い場合は、フラッシュ光が被写体に届かずに暗い画像となります。また、ISO感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します。「主な仕様」のフラッシュ光の届く範囲をご覧ください。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせてください(27ページ)。
- エリア設定で現在地と異なる場所が設定されています。
  [エリア設定]を設定し直してください(27ページ)。

シャッターボタンを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、本機の調整の範囲を超えています。設定し直してください。

画像が白っぽくなる(フレア)。
光のにじみが現れる(ゴースト)。

- 逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入っています。レンズフードを取り付けてください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像に

フィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合（光量低下）があります。この場合は［レンズ補正（周辺光量）］（169ページ）で補正することができます。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにしてください（57ページ）。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内で撮影してください。「主な仕様」のフラッシュ光の届く範囲をご覧ください。

液晶モニターに点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません（10ページ）。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。シャッタースピードが遅くなるので、三脚またはフラッシュの使用をおすすめします（41、87、126ページ）。

液晶モニター /ファインダー内の測光インジケーター ◀▶が点滅する。

- 被写体が明る過ぎる、または暗過ぎて、本機の測光範囲を超えています。

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダー /ファイルの名前を変更したためです（181ページ）。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- パソコン内の画像を本機で再生するには「PMB」を使って画像をコピーしてください。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください（183ページ）。

画像を削除する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください（153ページ）。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください(153ページ)。

GPS

GPSの電波を受信できない。

- [GPS機能]を[入]にしてください(158ページ)。
- 障害物の影響でGPS衛星の電波が受信できないことがあります。
- 位置情報を確実に測位するには、屋外の空の開けた場所に移動してから、本機の電源を入れ直してください。

位置情報の誤差が大きい。

- 周囲の建物などで電波が反射したり、受信した電波が弱いなど、状況により最大で数百メートルの誤差を生じます。

GPSアシストデータを取り込んでいるのに測位に時間がかかる。

- [日時設定]をしていない、または設定時刻が大きくずれています。正しく日にちを設定してください(27ページ)。
- アシストデータの有効期限が切れています。最新のGPSアシストデータに更新してください(159ページ)。
- GPS衛星の配置は常に変化しているため、ご使用になる場所や時刻などの条件によっては測位に時間がかかったり、測位できないことがあります。
- GPSは衛星から電波を受信し測位するシステムです。ビルや木立の陰など、電波を遮断・反射してしまう場所を避け、できるだけ屋外の空の開けた場所でご使用ください。

位置の情報が記録されていない。

- 動画にGPS位置情報をつけたままパソコンに取り込む場合は「PMB」を使用してください。

パソコン

最新サポート情報は、『α』専用サポートサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンを使う」を確認してください(65ページ)。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください(20ページ)、またはACアダプター (別売)を使用してください。
- 接続には、付属のUSBケーブルを使ってください(181ページ)。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください(181ページ)。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(181ページ)。
- OSに対応した手順でコピーしてください(181ページ)。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください(170ページ)。

画像を再生できない。

- 「PMB」をお使いの場合は、「PMBヘルプ」をご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときに「PMB」が自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください(181ページ)。

メモリーカード

本機に入らない。

- メモリーカードを入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください(21ページ)。

記録できない。

- メモリーカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください(34、154ページ)。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています(23、212ページ)。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、メモリーカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。

プリントする

プリントできない。

- RAW画像はプリントできません。RAW画像をプリントするには、CD-ROMに付属の「Image Data Converter」でJPEG画像に変換してください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB(DCF2.0/Exif2.21)に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります(164ページ)。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に横縦比が[16:9]のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れてプリントできない。

- 「PMB」を使ってプリントすると日付挿入ができます(69ページ)。
- 本機には画像に日付を挿入できる機能はありませんが、画像には日付情報が記録されています。お使いのプリンターやソフトウェアがExif情報を認識できれば日付を入れてプリントできます。対応の有無は、各メーカーにお問い合わせください。

- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れてプリントできます。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください(205ページ)。

電源を入れると、「エリア/日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください(27、205ページ)。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです(161ページ)。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- 電源スイッチが「ON」のままバッテリーを取り出しました。バッテリーを取り出すときは、電源スイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください(17、21ページ)。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。温度が上がっているときには、いったんバッテリーを取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。
- ACアダプター（別売）使用時は、一度コードを抜いて、電源を入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買いあげ店またはソニーの相談窓口にお問い合せください。

画面に ((✋))ERROR が表示される。

- 手ブレ補正機能が作動していません。そのまま撮影できますが、手ブレ補正は機能しません。電源スイッチをいったん「OFF」にして、再度「ON」にしてください。それでも戻らない場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にお問い合わせください。

画面に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

エリア/日付/時刻を設定してください

- エリアと日付、時刻を設定する。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電する（27、205ページ）。

電池が少ないので実行できません

- イメージセンサーのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できない。バッテリーを充電するか、ACアダプター（別売）を使用する。

このメモリーカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した。[実行]を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

メモリーカードエラー

- 本機では使えないカードが入っている。または、フォーマットに失敗した。

メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っている。
- メモリーカードが壊れている。
- メモリーカードの端子が汚れている。

メモリーカードがロックされています

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する。

ノイズリダクション実行中

- 長秒時ノイズリダクション、高感度ノイズリダクションが機能した場合、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行う。この間は次の撮影はできない。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがある。

レンズの装着を確認してください 非対応レンズの場合は、カスタムメニューでレリーズを許可にできます

- レンズが正しく装着されていない。またはレンズが取り付けられていない。
- 天体望遠鏡などにカメラを取り付ける場合は、[レンズなし時の

レリーズ]を[許可]にする。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしている。

しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がった。
本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

[!]

- 長時間撮影したため、本機の温度が上がった。撮影を終了してください。

この動画記録方式では 撮影できません

- [記録方式]を[MP4]にしてください。

FULL

- 本機で日付を管理できる枚数を越えている。

ERROR

- 本機の管理ファイルへの記録ができない。「PMB」で、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

カメラエラー システムエラー

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直す。何度も繰り返す場合はソニーの相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルに不整合が見つかりました 修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHDビュー動画の撮影、再生ができない。画面の指示に従い修復してください。

拡大できません 回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがある。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にある。本機でこれ以上のフォルダーを作成できません。

使用上のご注意

使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近くでの保管。
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。
- 湿度の高い場所
  レンズにカビが発生することがあります。

保管方法

使用しないときは、必ずレンズフロントキャップまたはボディキャップを付けてください。ボディキャップを付ける際には、本機内部にほこりが入るのを防ぐため、ボディキャップのほこりを落としてから付けてください。DT 18-55 mm F3.5-5.6 SAMレンズキットをご購入された場合は、レンズリヤキャップALC-R55をお買い求めください。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0 ～ 40℃です。動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからお使いください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切や電池の有無に関係なく保持するために充電式バックアップ電池を内蔵しています。充電式バックアップ電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し3か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式バックアップ電池が充電されていない

場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があります。ソニーの相談窓口にお問合せください(裏表紙)。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプター(別売)を使ってコンセントにつないで、本機の電源を切ったまま24時間以上放置する。

レンズとアクセサリーについてのご注意

本機には、カメラの特性に適合するように設計されたソニー製レンズ/アクセサリー*のご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

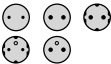
* コニカミノルタ製を含みます。

メモリーカードについて

メモリーカードおよびカードアダプターにラベルなどを貼らないでください。故障の原因になります。

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による[フォーマット]や[削除]では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また、メモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

撮影・再生に際してのご注意

- メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマットすることをおすすめします。
  フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。
- 長期間、画像の撮影・消去を繰り返しているとメモリーカード内のファイルが断片化(フラグメンテーション)して、動画記録が途中で停止してしまう場合があります。このような場合は、パソコンなどに画像を保存したあと、[フォーマット](170ページ)を行ってください。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。
- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。
- ファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご

使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください（205ページ）。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、メモリーカードが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- フラッシュの表面の汚れやゴミは、柔らかい布などを使ってきれいにしてください。発光による熱でフラッシュ表面の付着物が発煙したり、焦げる場合があります。
- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。メモリーカードなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

海外で使用するには

バッテリーチャージャーやACアダプター AC-PW10AM（別売）は全世界（AC100V ～ 240V・50/60Hz）で使えます。ただし、地域によってはコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねのうえ、ご用意ください。

コンセント形状例		
地域	主に北米	主にヨーロッパ
変換プラグアダプター	不要	必要

ご注意

- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）は不要です。故障の原因となるので使わないでください。

海外のテレビで見る（カラーテレビ出力方式）

本機で撮影した画像をテレビで見るときは、本機と同じカラーテレビ方式（NTSC）のテレビが必要です。

NTSC方式

日本、アメリカ、エクアドル、カナダ、韓国、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、台湾、中央アメリカ、チリ、バハマ、フィリピン、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ、など

PAL方式

イギリス、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、クウェート、クロアチア、シンガポール、スウェーデン、スイス、スペイン、スロバキア、タイ、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ベトナム、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、ルーマニア、など

PAL-M方式

ブラジル

PAL-N方式

アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ

SECAM方式

イラク、イラン、ウクライナ、ギリシャ、フランス領ギアナ、フランス、ブルガリア、モナコ、ロシア、など

AVCHD規格について

「AVCHD」規格は、高効率の圧縮符号化技術を用いて、1080i方式*[1]や720p方式*[2]のHD（ハイビジョン）信号を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラ用に開発された規格です。映像圧縮にはMPEG-4 AVC/H.264方式を、音声にはドルビーデジタル方式、または、リニアPCM方式を採用しています。
MPEG-4 AVC/H.264方式は、従来の画像圧縮方式に比べ、さらに高い圧縮効率を持った優れた方式です。この方式により、8cmDVDディスク、ハードディスクドライブ、フラッシュメモリ、メモリーカードなどにデジタルビデオカメラの高画質なハイビジョン映像信号を記録することができます。

本機での記録・再生について

本機ではAVCHD規格に基づき、以下の仕様でHD（ハイビジョン）記録ができます。

映像*[3]：**1080 60i対応機**
MPEG-4 AVC/H.264　1920×1080/60i、1920×1080/60p、1920×1080/24p
1080 50i対応機
MPEG-4 AVC/H.264　1920×1080/50i、1920×1080/50p、1920×1080/25p
音声：ドルビーデジタル2ch
記録メディア：メモリーカード

*[1] 1080i 有効走査線数1080本、インターレース方式のハイビジョン規格
*[2] 720p 有効走査線数720本、プログレッシブ方式のハイビジョン規格
*[3] 本機は、上記以外のAVCHD規格で記録されたデータの再生には対応していません。

困ったときは／本機について（応用編）

GPSについて

GPS衛星は、高度20,000kmの6つの軌道上に各4個、24個以上が設置されています。
GPS衛星からの電波を受信し、衛星の軌道情報（アルマナックデータ）と電波の伝播時間のデータなどから自分の位置を計算します。
位置を計算することを測位と呼び、衛星は3機以上受信できれば、緯度、経度がわかります。

- GPS衛星の配置は常に変化しているため、ご使用になる場所や時刻などの条件によっては測位に時間がかかったり、測位できないことがあります。
- GPSは衛星から電波を受信し測位するシステムです。ビルや木立の陰など、電波を遮断・反射してしまう場所を避け、できるだけ上空の開けた場所でご使用ください。
- GPS衛星からの電波が届かない以下のような場所や状況では、位置情報を記録できないことがあります。
  - トンネルの中・屋内やビルの陰
  - 高層ビルの間・建物の間の狭い道路
  - 地下・密集した樹木の間・高架の下・高圧電線など、近くに磁気を発生するものがある場合
  - 1.5GHz帯の携帯電話など、近くに同じ周波数帯の電波を発生するものがある場合

誤差について

- 本体電源を入れた直後に移動すると、移動しなかった場合にくらべて、測位までの時間が長くなることがあります。
- GPS衛星自体による誤差
  本機は、3個以上のGPS衛星からの電波を受信すると自動的に現在地を測位します。GPS衛星自体による誤差は、約30m程度ですが、測位する周辺の環境によってはさらに大きな誤差を生じることがあります。このような場合は、実際に居た場所と地図上での位置が異なることがあります。また、GPS衛星は米国国防総省により管理されており、意図的に精度が変更されることがあります。
- 測位時間による誤差
  本機では測位中に位置情報を約15秒ごとに取得しています。位置情報の取得と画像への書き込みに若干の時間差があるため、実際に画像を撮影した位置と地図上の位置が異なる場合があります。

飛行機内規制について

飛行機の離着陸時には、機内の案内に従って本体電源をお切りください。

その他の規制について

GPS機能は、ご利用になる国や地域の規制に従ってお使いください。

測地系について

本機では、測地系として、「WGS-84」を採用しています。

3D撮影について

撮影のご注意

- 以下の場合は、3D撮影に適していません。
  - 動きのある被写体
  - 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
  - 空、砂浜、芝生などの似たような模様が続く被写体
- 以下の場合、3D撮影が中断されることがあります。
  - カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
  - ブレ過ぎた場合
- 一定時間内に3D撮影画角に満たなかった場合、足りない部分は黒画で記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されます。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目が滑らかに記録できない場合があります。
- 暗いシーンでは画像がブレる場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、うまく撮影できないことがあります。
- 3D撮影される画角全体と、AE/AFロックしたときの画角の明るさや色合い、ピント位置などが極端に異なると、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。
- 撮影方向は、左右方向のみです。
- 3D撮影の手順については39ページをご覧ください。

3D画像の再生について

3D撮影した画像を本機の液晶モニター、または3D非対応テレビで再生した場合は、通常の静止画で表示されます。

3D画像のファイルについて

- 3D画像はJPEGファイルとMPOファイルを合成して1枚の画像を作成します。パソコン上でどちらかのファイルを削除した場合、うまく再生できなくなることがあります。
- 3D画像鑑賞の手順については、151ページ、156ページをご覧ください。

メモリーカードについて

メモリーカード使用上のご注意

- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- 長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっています。ご注意ください。
- アクセスランプ点灯中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、バッテリーを取りはずしたり、電源を切らないでください。データが壊れることがあります。
- 強い磁気のそばにメモリーカードを近づけたり、静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、データが壊れることがあります。
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどにバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモリーカードの持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 水にぬらさないでください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 書き込み禁止スイッチや誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると画像の記録や消去などができなくなります。この場合はロックを解除してください。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードは、本機での動作を保証しません。本機でフォーマットしてください。
- お使いのメモリーカードと機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- メモリーカード本体にラベルなどを貼らないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。

本機で使用できる"メモリースティック"についてのご注意

本機で使用できるものは下記のとおりです。ただし、すべての"メモリースティック PRO デュオ"の動作を保証するものではありません。

"メモリースティック PRO デュオ" ＊1＊2＊3

"メモリースティック PRO-HG デュオ" ＊1＊2

本機で使用可能です。

"メモリースティック デュオ"

本機では使用できません。

"メモリースティック"
"メモリースティック PRO"

本機では使用できません。

*[1]マジックゲート搭載の"メモリースティック デュオ"です。
"マジックゲート"とは、暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。
本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。

*[2]パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

*[3]動画撮影時はMark2マークの付いたもののみ使えます。

- 使用可能な"メモリースティック"についての最新情報は、ホームページ上の「"メモリースティック"対応表」をご確認ください。
http://www.sony.co.jp/mstaiou/

"メモリースティック マイクロ"(別売)使用上のご注意

- 本製品は"メモリースティック マイクロ"("M2")に対応しています。
"M2"は"メモリースティック マイクロ"の略称です。
- "メモリースティック マイクロ"を本機でお使いの場合は、必ず"メモリースティック マイクロ"をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入すると、"メモリースティック マイクロ"が取り出せなくなる可能性があります。
- "メモリースティック マイクロ"は小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

バッテリー/バッテリーチャージャーについて

- バッテリーの残量や、充電環境によって、充電時間は異なります。
- 周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- バッテリーチャージャーを取り付けるときは、お手近なコンセントをお使いください。
- 充電が完了してCHARGEランプが消えても電源からは遮断されません。使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- 充電終了直後またはそれに近い状態のバッテリーを未使用のまま、何度も充電を繰り返さないでください。バッテリーの性能に影響します。
- バッテリーチャージャー（付属）で、"インフォリチウム"Mシリーズ以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- CHARGEランプが点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。また、指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど、別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合は、バッテリーの異常が考えられます。
- バッテリーチャージャーが汚れていると正常に充電できないことがあります。乾いた布などで汚れを拭き取ってください。

バッテリー使用上のご注意

- バッテリーはNP-FM500Hをご使用ください。NP-FM55H、NP-FM50、NP-FM30は使用できません。
- 使用状況や環境によっては、残量表示は正しく表示されません。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いと、バッテリーの性能は低下し、使用できる時間は短くなります。また、連写の速度も遅くなります。バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影や連続撮影、電源の入り切りなどを頻繁にしたり、液晶モニターを明るく設定すると、バッテリーの消費が早くなります。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低

下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

保管方法について

バッテリーを長持ちさせるためには、長時間使用しない場合でも、1年に1回程度充電して本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。

ライセンスについて

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアである
「C Library」、「zlib」、「libjpeg」が搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。
ライセンス内容に関しては、同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、
内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
CD-ROMの「License」フォルダにある「license3.pdf」をご覧ください。「C Library」、「zlib」、「libjpeg」の記載(英文)が収録されています。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 AVC規格に合致したビデオ信号(以下、AVC VIDEOといいます)にエンコードすること。
(ii) AVC Video(消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます)をデコードすること。
なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License(以下「GPL」とします)または、GNU Lesser General Public License(以下「LGPL」とします)の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
ソースコードは、Webで提供しております。
ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux/
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容に関しては、同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、
内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
CD-ROMの「License」フォルダにある「license2.pdf」をご覧ください。「GPL」、「LGPL」の記載(英文)が収録されています。
PDFをご覧になるにはAdobe Readerが必要です。パソコンにインストールされていない場合には
下記のホームページからダウンロードすることができます。
http://www.adobe.com/

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

"困ったときは"の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後7年間保有しています。

モバイルサイト

モバイルサイトでは、サポート情報やイベント情報などを掲載しています。
http://www.sony.co.jp/mobile/support/dslr

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順